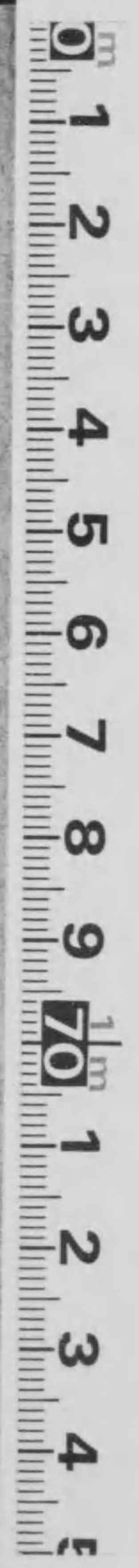


283  
31

水戸高等學校一覽

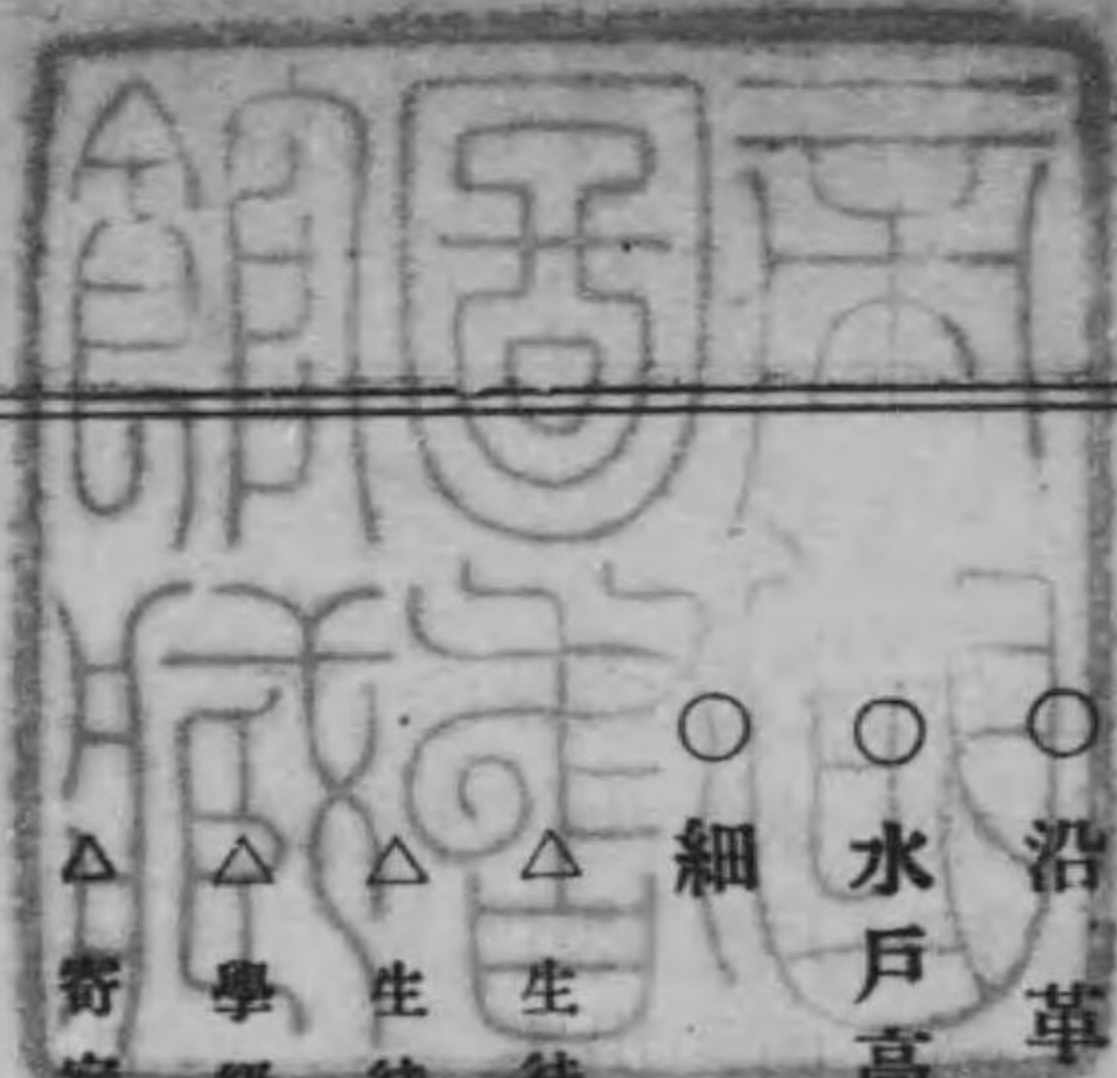
自  
大正十一年  
至



始



283-3/



水戸高等學校一覽

目次

- 沿革略
- 水戸高等學校學則
- 細則
- △生徒心得要領
- △生徒心得細則
- △學級總代及副總代規程
- △寄宿舍細則
- △寄宿舍收容規程
- △服裝規程
- △校務分掌規程
- △教授會規程

自大正十一年

一頁  
三頁  
一五頁  
一五頁  
一六頁  
一七頁  
一八頁  
一九頁  
二二頁  
二八頁

大正  
10. 8 17  
寄贈

校寄贈本

△ 評議員會規程	二九頁
△ 職員服務心得	二九頁
△ 文書處理細則	三一頁
△ 宿直規程	三二頁
△ 物品會計規程細則	三五頁
○ 職員	四三頁
○ 生徒	五一頁
○ 生徒出身學校府縣別調	六七頁
○ 水戶高等學校校友會會則	七三頁
○ 水戶高等學校校友會會計規程	七六頁
○ 高等學校令(抄)	七九頁
○ 高等學校規程(抄)	八〇頁

參 照

○ 文部省直轄諸學校官制(抄)	九六頁
○ 文部省直轄諸學校長職務規程	九七頁
○ 高等學校教員規程(抄)	九九頁
○ 官立高等學校高等科入學者選拔試驗規程	一〇四頁
○ 高等學校高等科入學資格試驗規程	一〇七頁
○ 專門學校入學者檢定規程	一〇八頁
○ 學生生徒兒童身體檢查規程(抄)	一〇九頁
○ 發育概評決定標準(抄)	一一五頁



# 水戸高等學校一覽

自大正十一年  
至同十一年

## 沿革略

大正八年

八月二十八日

内田信也氏本校創設費トシテ寄附金壹百萬圓(敷地價格ヲ含ム)ヲ政  
府ニ完納ス

大正九年

四月十七日

勅令第百十號ヲ以テ本校ヲ設置セラレ同第百十一號ヲ以テ職員定員  
ヲ定メラル(校長一人、教授十六人、書記二人)

四月十九日

北海道帝國大學附屬大學豫科教授渡邊又次郎學校長ニ任セラレ

四月二十日

文部省告示第二百八十號ニ依リ事務所ヲ文部省内ニ置キ事務ヲ開始  
ス

六月一日

五月二十五日文部省告示第三百二十七號ニ依リ事務所ヲ茨城縣東茨

頁	行	誤	正
二〇	五	白線ノ下(ナ入ル)	
四七	四	高田憲治	眞治
四九	六	物品會計官史	官吏
一〇六	五	成績順	成績順

城郡常磐村本校内ニ移ス

八月二十五日 本校學則ヲ制定シ同月諸細則ヲ制定ス

九月一日 生徒二百人ノ入學ヲ許可シ同月六日授業ヲ開始ス

大正十年

三月三十日 勅令第五十號ヲ以テ本校職員定員ヲ増加セラル

（教授二十三人、助教一人、書記四人）

四月一日 學則中學年學期及休業日ニ關スル件並ニ授業料及寄宿料ニ關スル件

ヲ改正ス

四月十六日 服裝規程ヲ改正ス

五月七日 評議員會規程ヲ改正ス

### 水戸高等學校學則

#### 第一章 總 則

第一條 本校ハ大正七年勅令第三百八十九號高等學校令ニ依リ男子ノ高等普通教育ヲ完成シ特ニ國民道德ノ充實ニカムルヲ以テ目的トス

第二條 本校ノ學科ハ大正八年文部省令第八號高等學校規程所定ノ高等科文科及理科トス

#### 第二章 學年學期及休業日

第三條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第四條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ 八月三十一日マテ

第二學期 九月一日ヨリ 十二月三十一日マテ

第三學期 一月一日ヨリ 三月三十一日マテ

第五條 休業日左ノ如シ

日曜日  
 大祭日  
 春期休業 三月十六日ヨリ  
 四月七日マデ  
 夏期休業 七月十一日ヨリ  
 九月十日マデ  
 冬期休業 十二月二十五日ヨリ  
 翌年一月七日マデ  
 第六條 式日左ノ如シ  
 入學式日  
 創立記念日 (四月十七日)  
 天長節祝日  
 一月一日  
 紀元節  
 卒業式日

第三章 學科課程

第七條 文科及理科ハ之ヲ甲類及乙類ニ分ツ

甲類ハ英語ヲ第一外國語トシ獨語ヲ第二外國語トスルモノ乙類ハ獨語ヲ第一外國語トシ英語ヲ第二外國語トスルモノトス

第八條 文科甲類及乙類ノ各學年ノ學科課程及每週教授時數ハ左表ノ如シ

學科	第一學年		第二學年		第三學年	
	甲類	乙類	甲類	乙類	甲類	乙類
修身	一	一	一	一	一	一
國語及漢文	六	六	五	五	五	五
英語	九	(三)	八	(三)	八	(三)
獨語	(四)	一一	(四)	一〇	(四)	一〇
歷史	三	三	五	五	四	四
地理	二	二				
哲學概說					三	三
心理及論理			二	二	二	二
法制及經濟			二	二	二	二

數	三	三	三	三
自然科學	二	二	三	三
體操	三	三	三	三
計	(三三) 二九	(三四) 三一	(三三) 二九	(三四) 三一

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ便宜他ノ學科目ヲ課ス  
 第九條 理科甲類及乙類ノ各學年ノ學科課程及每週教授時數ハ左表ノ如シ

學科	第一學年		第二學年		第三學年	
	甲類	乙類	甲類	乙類	甲類	乙類
修身	一	一	一	一	一	一
國語及漢文	四	四	二	二	一	一
英語	八	(三) 四	六	(三) 二	六	(三) 九
獨語	(四) 四	一〇	(四) 四	九	(四) 四	(四) 九
數學	四	四	四	四	三	三
物理			三	三	三	三
化學			三	三	三	三

植物及動物	二	二	二	二	二	(講義二) 四 (實驗二) 四
礦物及地質	二	二	二	二	二	
心理			二	二	二	
法制及經濟	二	二	二	二	二	
圖畫	二	二	二	二	(二) 二	(二) 二
體操	三	三	三	三	三	三
計	(三三) 二八	(三四) 三〇	(三三) 二八	(三四) 三一	(三三) 二八	(三四) 三一

第三學年ニ於ケル數學(二)及圖畫(二)ト植物及動物(講義二)實驗(二)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシム  
 第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ便宜他ノ學科目ヲ課ス

第四章 入學在學休學退學

第十條 入學ノ期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス  
 第十一條 第一學年ニ入學スルコトヲ得ル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ體格檢査ニ合格シタル者ニ限ル

- 一 中學校第四學年ヲ修了シタル者
  - 二 高等學校尋常科ヲ修了シタル者
  - 三 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者
  - 四 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者
  - 五 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シテ指定シクル者
  - 六 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シテ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者
- 第十二條 入學志願者ハ本校ヨリ入學志願者名票ノ交付ヲ受ケ之ニ所要ノ事項ヲ記入シ檢定料金五圓及最近ノ撮影ニ係ル寫眞ヲ添ヘ指定ノ期日マテニ本校ニ差出スヘシ
- 第十三條 入學志願者ノ數募集人員ニ超過シタル時ハ選抜試験ヲ行ヒ入學者ヲ定ム選抜試験ノ程度及選抜ノ方法ハ大正八年文部省令第十四號官立高等學校高等科入學者選抜試験規程ニ依ル

- 第十四條 入學許可ノ通知ヲ受ケタル者ハ本校ヨリ交付スル學籍簿用紙ニ所要ノ記入ヲナシ入學資格證明書ニ入學料金參圓ヲ添ヘテ指定ノ期日マテニ本校ニ差出スヘシ
- 第十五條 生徒疾病又ハ事故ニヨリ授業ニ缺席スルトキハ當日ヨリ三日以内ニ其ノ旨届出ツヘシ
- 第十六條 生徒疾病又ハ事故ニヨリ三箇月以上出席スルコト能ハサル見込ノ者ハ事由ヲ具シテ當該學年間休學ヲ願出ツルコトヲ得
- 第十七條 生徒兵役ニ服スルカ爲ニ三箇月以上出席スルコト能ハサル見込ノ者ハ事由ヲ申告シテ服役中休學ノ取扱ヲ受クルコトヲ得
- 第十八條 休學シタル生徒ハ次學年ノ始メヨリ原級ニ復シテ修學スヘキモノトス但シ兵役ニ服シタル者ノ課業ニ就クヘキ時期ハ服役滿期後四週日以内トス
- 第十九條 生徒疾病又ハ事故ニヨリ退學セントスルトキハ事由ヲ具シテ其ノ旨願出ツヘシ



第二十條 生徒左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ諭旨シテ退學セシム

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 引續キ一箇年以上出席セサル者
- 四 正當ノ理由ナク引續キ一箇月以上出席セサル者
- 五 出席常ナラサル者

第二十一條 生徒左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ學籍ヲ除ク

- 一 授業料又ハ寄宿料ノ滯納十五日ニ及フ者
- 二 二箇年間同一學年ニ在リテ尙ホ進級又ハ卒業セサル者
- 三 第二十條ノ諭旨ノ後十五日ヲ經テ尙ホ手續ヲ了セサルモノ
- 第二十二條 一旦退學シタル者一箇年以内ニ再ヒ入學ヲ願出ツルトキハ第二學年以  
上ノ生徒タリシ者ニ限り詮議ノ上原級以下ニ復學セシムルコトアルヘシ

第二十三條 生徒ノ入學及退學ニ關シテハ本章ニ定ムルモノノ外臨機ノ取扱ヲナス

コトアルヘシ

第五章 學業成績考查

第二十四條 生徒ノ學業成績ヲ考查センカ爲ニ各學期末ニ於テ各學科目ノ試験ヲ行  
フ但シ學科目ノ種類ニヨリ全部又ハ一部ノ試験ヲ行ハサルコトアルヘシ

第二十五條 生徒ノ學業成績ハ各學科目ノ學期評點及學年評點ヲ以テ之ヲ表示ス

各學科目ノ學期評點ハ該學科目ノ學期試験及平素ノ成績並ニ勤惰ヲ參酌シテ之ヲ  
定ム

各學科目ノ學年評點ハ該學科目ノ各學期評點ヲ平均シテ之ヲ定ム

第二十六條 各學科目ノ評點ハ一百ヲ以テ滿點トス

第二十七條 試験ヲ缺キタル學科目ノ學期評點ハ該學期ニ於ケル平素ノ成績及勤惰  
ト他ノ學期ニ於ケル該科目ノ學期評點トヲ參酌シテ學年末ニ於テ之ヲ定ム但シ停  
學又ハ正當ト認メ難キ理由ノ爲ニ試験ヲ缺キタル學科目ノ學期評點ハ詮議ノ上之  
ヲ決定ス

第二十八條 各學科目ノ學年評點五十以上總科目ノ平均學年評點六十以上ヲ得タル者ハ之ヲ及第トシテ進級又ハ卒業セシメ然ラサル者ハ之ヲ落第トシテ原級ニ止ム但シ學年評點五十未滿ノ學科目二箇以內ヲ有スル者ハ平均學年評點佳良ニシテ特別ノ事情アリト認メタル場合ニ限り詮議ノ上之ヲ及第セシムルコトアルヘシ

第六章 授業料及寄宿料

第二十九條 授業料ハ一學年金四拾圓トス

第三十條 授業料ハ各學期ニ於テ左記ノ如ク分納セシム

第一學期 金拾貳圓

第二學期 金拾六圓

第三學期 金拾貳圓

授業料納付ノ期日ハ別ニ之ヲ定ム

第三十一條 授業料ハ兵役ノ爲ニ休學中ノ者ニ限り該學期ニ於テ徵收スヘキ分ヲ免除ス

第三十二條 一定ノ期日中ニ授業料ヲ納付セサル者ニ對シテハ之ヲ納付スルマテ授業ヲ停止ス

第三十三條 寄宿舎ニ於テ修學スル生徒ニ對シテハ授業料納付ト同一ノ日ヲ以テ左ノ寄宿料ヲ納付セシム

第一學期分 金四圓五拾錢

第二學期分 金 六 圓

第三學期分 金四圓五拾錢

學期ノ半途ヨリ入舎スル者ニ對シテハ當該學期分ノ月割額ヲ徵收ス

第七章 賞 罰

第三十四條 生徒ノ各學年ニ於ケル修學ノ狀況及其ノ結果ヲ考查シテ他ノ生徒ノ模範トナスヘキ者ハ適宜ノ方法ニ依リ之ヲ表彰ス

第三十五條 生徒ニシテ其ノ本分ヲ缺キタル者アルトキハ其ノ輕重ニ從ヒ適宜之ヲ懲戒ス

懲戒ハ通常戒飭及停學ノ二種トシ本分ヲ缺クコトノ特ニ甚シキ者ハ之ヲ放校ニ處ス

第八章 寄宿及通學

第三十六條 生徒ハ特別ノ事情ニヨリ通學ノ許可ヲ得タル者ノ外本校ノ寄宿舎ニ於テ修學スヘキモノトス

第三十七條 通學生徒ニシテ宿所ヲ變更セントスルトキハ其ノ旨學校ニ届出ツヘシ

第三十八條 通學生徒ノ宿所ニシテ不適當ト認めタル場合ハ轉宿ヲ命ス

第九章 服制

第三十九條 生徒ハ本校所定ノ服裝ヲナスヘシ

新ニ入學シタル生徒ニ對シテハ入學後三十日間ハ前項ノ規定ヲ適用セス

細則

生徒心得要項

第一條 本校生徒ハ吾カ國體ト國民道德ノ精髓トヲ了得シテ校規ヲ嚴守シ教訓ヲ服膺シ智徳ヲ修練シ身體ヲ健全ニシ以テ國家カ要望スル有用ノ材タランコトヲ期スヘシ

第二條 生徒ハ時勢ノ必要ニ鑑ミ特ニ左記ノ事項ニ就キテ最善ノ努力ヲナスヘシ

- 一 業務ヲ樂ミ責任ヲ重ンシ忠實恪勤ノ性格ヲ作ルコト
- 二 廉耻ヲ尙ヒ誘惑ヲ斥ケ堅固不拔ノ志操ヲ持スルコト
- 三 輕薄奢侈ノ傾向ヲ戒メ專ラ摯實質素ヲ旨トスルコト
- 四 自治獨創ノ習性ヲ養ヒ共同犧牲ノ精神ヲ發揮スルコト

生徒心得細則

第一條 生徒ハ本校職員ニ對シテハ勿論相互ニ敬禮スヘシ

第二條 生徒集會ヲ催サントスル時ハ豫メ訓務課ニ届出ツヘシ

第三條 生徒揭示ヲナサントスル時ハ豫メ訓務課ノ檢閲ヲ受クヘシ

第四條 教室ニ於テハ必ス脱帽シ靜肅ヲ旨トシ授業ノ始終ニハ教官ニ對シテ立禮スヘシ

第五條 退學願休學願缺席届出等ハ學級主任ノ檢印ヲ經テ教務課ニ差出スヘシ

第六條 建物器具等ヲ毀損又汚染シタルモノハ辨償セシム

第七條 風紀ヲ紊ス虞アル場所ニハ立入ルヘカラス

第八條 講堂其ノ他危險ノ恐レアル場所ニ於テ喫煙スヘカラス

#### 學級總代及副總代規程

第一條 各學級ニ總代及副總代各一名ヲ置ク

第二條 學級總代及副總代ハ其ノ學級生徒ヲシテ互選セシメタル數名ノ候補者中ニ就キテ之ヲ命ジ其ノ任期ハ一學年間トス

第三條 學級總代ハ其ノ學級生徒ヲ代表シ該學級主任ノ指揮ノ下ニ校規命令ノ徹底ニ努メ兼テ其ノ教室内ノ秩序及清潔ヲ保持スヘキモノトス

學級副總代ハ總代ヲ補助シ總代不在ノ時ハ之ヲ代理スルモノトス

第四條 學校長又ハ生徒監ニ於テ必要アリト認メタル場合ハ臨機學級總代ヲ召集ス

#### 寄宿舎細則

第一條 寄宿舎ハ每學年ノ始業前三日ニ開キ其ノ終ニ閉ツ

第二條 各室人員ノ配當ハ生徒監之ヲ定ム

第三條 自修食事外出歸舎其ノ他ノ時限等ハ校長ノ承認ヲ經テ生徒監之ヲ定ム

第四條 舎生外出スル時ハ入口備付ノ姓名札ニ依リ其ノ在否ヲ明カニスヘシ

第五條 外出先ニ於テ病氣其ノ他事故ノ爲メ外泊シ又ハ歸舎時刻ニ遅刻シタル時ハ其ノ行先ヨリ證明書ヲ得テ歸舎ノ際届書ニ添ヘテ差出スヘシ

第六條 歸舎時刻後外出セントスルモノハ訓務課ニ願出ツヘシ

第七條 病氣又ハ止ムヲ得サル事情アリテ外泊セントスル者ハ事由日限ヲ詳記シ訓務課ニ願出ツヘシ

第八條 舎生病氣ニ罹リタル時ハ症狀ニヨリ下宿ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 舍生ハ舍内ノ清潔及整頓ニ付各自其ノ責ニ任スヘキモノトス

第十條 舍生ニ達スル書留郵便物ニシテ受取證ヲ要スルモノ及電報ハ訓務課ヲ經由スルモノトス

第十一條 寄宿舎建物備品等ヲ毀損又ハ紛失セシ時ハ直ニ之ヲ届出テ辨償スヘシ

第十二條 舍生ハ舍生規約ヲ定メ學校長ノ許可ヲ得テ之ヲ實行スヘシ

寄宿舎收容規程

第一條 本校ニ校内寄宿舎及校外寄宿舎ヲ置ク

第二條 第一學年生徒ハ全部ヲ校内寄宿舎ニ收容ス

第三條 第二學年生徒ハ約九十名第三學年生徒ハ約四十名ヲ限り校内寄宿舎ニ收容ス

第四條 校内寄宿生タランコトヲ希望スル者カ前條ノ定員ヲ超過スル場合ハ抽籤其他適當ノ方法ニヨリテ在舍生ヲ決定ス

第五條 校内寄宿生タルコトヲ得サル生徒ハ願ニヨリ自宅又ハ之ニ準スヘキ家ヨリ

通學ノ許可ヲ得タルモノ、外總テ校外寄宿舎ニ收容ス

第六條 校内寄宿舎ニ缺員ヲ生シタル場合ハ入舍申込ノ順位ニヨリ校外寄宿生又ハ通學生ノ内ヨリ之ヲ補填ス

附則

第七條 大正十年四月ヨリ同十一年三月マテノ間ハ校内寄宿舎ニ於ケル第二學年生徒ノ收容人員ヲ約百三十名トス

第八條 第二、第三學年生徒ハ校外寄宿舎ノ完備セサル期間ニ限り本人ノ希望ニヨリ本校ニ於テ適當ト認メタル家ヨリ通學スルコトヲ得シム  
前項ノ場合ニ於テハ本校所定ノ通學承認願書ニ所要ノ記入ヲナシ豫メ學校長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

服裝規程

第一條 本校所定ノ被服左ノ如シ  
一 帽

正帽

製式 海軍形

品質 黒羅紗

帽章 金色六稜形

横章 白線幅二分二條

略帽

製式 縁三寸 高二寸五分

鉢卷 黒布巾一寸五分

品質 麥藁

帽章並横章正帽ニ同シ

二夏服

製式 立襟背廣形

品質 藍鼠霜降リ小倉織

鈕釦 金色

襟章 金色文字(文科ハL理科ハS)

三冬服

品質 紺色絨或ハ小倉織

製式 鈕釦及襟章ハ夏服ニ同シ

四靴 黒皮製

必要ノ場合ニ於テ黒色羅紗ノ卷脚絆ヲモ着用セシム

第二條 左ノ場合ニハ必ス所定ノ服装ヲナスヘシ

一 儀式舉行ノ場合

二 授業ヲ受クル場合

三 特ニ學校ヨリ指定シタル場合

第三條 制服着用ノ期間左ノ如シ

一 夏服 五月十六日ヨリ十月十五日マテ

但シ新ニ入學シタル生徒ニ限り五月一日ヨリ着用スルコトヲ得

二 冬服 十月十六日ヨリ翌年五月十五日マテ

夏服用ノ期間ニ限り儀式若クハ體操ノ授業ノ場合及特ニ指定シタル場合ノ外ハ略帽ヲ着用スルコトヲ得

第四條 病氣其ノ他止ムヲ得サル事由ニ依リ制服ヲ着用スルコト能ハサル時ハ其ノ事由ヲ詳記シテ許可ヲ願出テ和服用許可證ヲ受クルニアラサレハ授業ヲ受クルコトヲ得ス

第五條 生徒外出ノ際ハ制服ヲ着用スヘシ若シ和服ヲ着用スル時ハ必ス制帽及袴ヲ着用スヘシ

(圖ハ略ス)

### 校務分掌規程

第一條 校務ヲ分テテ教育部及事務部トス

第二條 教育部ニ教頭ヲ置キ教授中ヨリ之ヲ命ス

教頭ハ校長ノ指揮ヲ承ケ教育部ニ關スル事項ヲ監理ス

第三條 各學科ニ學科主任ヲ、各學級ニ學級主任ヲ置キ教授中ヨリ之ヲ命シ其ノ任期ハ孰モ一學年間トス

第四條 學科主任ハ校長及教頭ノ指揮ヲ承ケ左ノ事項ヲ擔當ス

一 當該學科教授上ノ整理及統一ニ關スル事項

二 當該學科ニ屬スル備品ノ保管及消耗品ノ受拂ニ關スル事項

第五條 學級主任ハ校長及教頭ノ指揮ヲ承ケ左ノ事項ヲ擔當ス

一 擔任學級生徒ノ出缺、勤惰、學業、操行、健康等ニ關スル事項

二 擔任學級教室ノ整理及清潔ニ關スル事項

第六條 事務部ニ教務課、訓務課、圖書課、庶務課及ヒ會計課ヲ置キ事務ヲ分掌セシム

各課ニ課長ヲ置ク

教務課長、圖書課長、庶務課長ハ教授中ヨリ訓務課長ハ生徒監中ヨリ之ヲ命シ會

計課長ハ會計主任ヲ以テ之ニ充ツ

第七條 教務課長、訓務課長、圖書課長ハ校長及教頭ノ指揮ヲ承ケ課務ヲ主掌ス  
庶務課長、會計課長ハ校長ノ指揮ヲ承ケ課務ヲ主掌ス

第八條 各課員ハ課長ノ指揮ヲ承ケ課務ニ従事シ必要ニ應シ他課ノ事務ヲ補助ス  
第九條 教務課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 學科課程、教官ノ擔任學科目及ヒ授業時數ニ關スル事項
- 二 教授要目及教科用圖書ニ關スル事項
- 三 教室及教授上ノ設備ニ關スル事項
- 四 學級編成ニ關スル事項
- 五 休業ニ關スル事項
- 六 試験、進級、卒業及成績證明ニ關スル事項
- 七 生徒ノ入學、退學、缺席等ニ關スル事項
- 八 生徒ノ學籍簿及出席簿ニ關スル事項

- 九 在學證明及兵役ニ關スル事項
  - 十 卒業生ノ大學進入ニ關スル事項
  - 十一 教官ノ會議ニ關スル事項
  - 十二 參觀人ノ取扱ニ關スル事項
  - 十三 以上ノ外教務ニ關スル一切ノ事項
- 第十條 訓務課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 生徒ノ訓育ニ關スル事項
- 二 生徒ノ操行及服裝ニ關スル事項
- 三 生徒ノ賞罰ニ關スル事項
- 四 生徒ノ身體檢查ニ關スル事項
- 五 生徒ノ體育及運動ニ關スル事項
- 六 生徒ノ集會並ニ揭示ニ關スル事項
- 七 生徒ノ通學及宿所ニ關スル事項



- 八 生徒ノ入舎、退舎、外宿、旅行等ニ關スル事項
  - 九 寄宿舍ノ設備、警衛及衛生ニ關スル事項
  - 十 寄宿舍ノ炊事監督ニ關スル事項
  - 十一 以上ノ外生徒及寄宿舍ニ關スル一切ノ事項
- 第十一條 圖書課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 圖書ノ整理及保管ニ關スル事項
  - 二 圖書ノ目錄ニ關スル事項
  - 三 圖書ノ貸付ニ關スル事項
  - 四 圖書ノ購入ニ關スル事項
  - 五 圖書印ノ保管ニ關スル事項
  - 六 書庫及閱覽室ニ關スル事項
  - 七 以上ノ外圖書ニ關スル一切ノ事項
- 第十二條 庶務課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル

- 一 御眞影並ニ勅語謄本ニ關スル事項
  - 二 職員ノ進退、身分並ニ服務ニ關スル事項
  - 三 學校長ノ官印並ニ校印ノ管守ニ關スル事項
  - 四 儀式ニ關スル事項
  - 五 規則ノ制定並ニ變更ニ關スル事項
  - 六 公文書ノ接受並ニ發送ニ關スル事項
  - 七 公文書ノ整理及保存ニ關スル事項
  - 八 一覽、年報、統計及官報報告ニ關スル事項
  - 九 寄附ニ關スル事項
  - 十 宿直ニ關スル事項
  - 十一 以上ノ外他課ニ屬セサル一切ノ事項
- 第十三條 會計課ニ於テハ左ノ事項ヲ掌ル
- 一 歳入歳出ノ豫算及決算ニ關スル事項

- 二 資金ニ關スル事項
- 三 官有財産及物品ニ關スル事項
- 四 土地及建物ニ關スル事項
- 五 會計檢査ニ關スル事項
- 六 備人ニ關スル事項
- 七 校内ノ設備、警衛及衛生ニ關スル事項
- 八 以上ノ外會計ニ關スル一切ノ事項

第十四條 各課ノ分掌事務ニシテ他課ニ關スルモノハ合議ニヨリ之ヲ處理セシム

教授會規程

- 第一條 學校長ハ左ノ事項ニ關シ必要ト認メタルトキハ教授會ヲ開キ其意見ヲ徵ス
- 一 學科課程ニ關スル事項
  - 一 試驗ニ關スル事項
  - 一 其他學校長ニ於テ生徒ノ教育上重要ト認メタル事項

第二條 教授會ハ教授ヲ以テ之ヲ組織ス但シ必要ノ場合ニ於テハ教授以外ノ職員ヲモ列席セシム

評議員會規程

- 第一條 本校ニ評議員五名ヲ置ク
- 第二條 評議員ハ教授ノ互選シタル者ニ就キ之ヲ命シ其任期ハ一學年間トス
- 第三條 學校長ニ於テ校務ニ關シ必要ト認メタルトキハ評議員會ヲ開キ其意見ヲ問フ
- 第四條 評議員會ハ評議員ヲ以テ之ヲ組織ス但シ必要ノ場合ニ於テハ評議員以外ノ職員ヲモ列席セシム

職員服務心得

- 第一條 新任者ハ直ニ住所ヲ届出ツヘシ
- 第二條 氏名、族籍若クハ住所ヲ變更シ其ノ他身分ニ異動ヲ生シ其ノ事項ノ履歷上ニ關係アルモノハ其都度届出ツヘシ

大正十一年

第三條 校務繁劇ノ場合又ハ上官ヨリ特ニ命セラレタルトキハ執務時間外又ハ休日

ト雖モ執務スヘシ

第四條 病氣其ノ他止ムヲ得サル事故ニ依リ缺勤又ハ遅刻スルトキハ事由ヲ具シ當

日午前八時以前ニ到達スル様届出ツヘシ

第五條 出張ヲ命セラレタルトキハ出發及歸校ノ際其ノ旨ヲ届出テ且歸校後七日以

内ニ復命書ヲ差出スヘシ但簡單ナル事項ハ口頭ヲ以テ復命スルコトヲ得

第六條 父母ノ祭日ニ休暇セントスルトキハ前日中ニ届出ツヘシ

第七條 服忌ヲ受クルトキハ其ノ親族關係ヲ記シ届出ツヘシ

第八條 轉地療養、父母ノ病氣看護又ハ墓參ノ爲ニ賜暇ヲ請ハントスルトキハ豫定

日數及行先地ヲ記シ許可ヲ受クヘシ

第九條 休暇中旅行セントスルトキハ豫定日數及行先地ヲ記シ出發前届出ツヘシ

第十條 本務以外ノ職務ニ従事セントスルトキハ報酬ノ有無ニ拘ラス許可ヲ受クヘ

シ

第十一條 近火其ノ他非常事故アルトキハ速ニ登校シ上官ノ指揮ヲ受クヘシ但至急

ヲ要スルトキハ當直員ト協議シ臨機ノ處置ヲナスヘシ

文書處理細則

第一條 本校ニ到達シタル文書ハ凡テ庶務課ニ於テ之ヲ接受シ直ニ文書件名簿ニ其

ノ件名及番號ヲ記シ文書ニ受付番號ヲ付シ主掌分課ニ配付シ取扱者ノ認印ヲ徴ス

ヘシ但寄宿舎ニ宛テタルモノハ寄宿舎ニ親展書及私信ハ各名宛人ニ交付スルモノ

トス

二分課以上ニ關係アル文書ハ其ノ關係ノ重キニ從ヒ配付スヘシ書留ハ別ニ送付簿

ニ記シ宛名人ノ認印ヲ徴スヘシ

第二條 文書ノ配付ヲ受ケタルトキハ各課ニ於テ遲滯ナク相當處理スヘシ

決裁済ノ文書ニシテ發送ヲ要スルモノハ淨書校合シ各課ニ備フル文書件名簿ニ依

リ番號ヲ付シ其ノ議案書ヲ添ヘ庶務課ニ送付スルモノトス

庶務課ハ直ニ發送ノ手續ヲ了シ議案書ヲ當該課ニ返付スヘシ

校長印及校印ハ庶務課書記之ヲ押捺スルモノトス

第三條 議案書ニハ關係書類ヲ悉ク添付シテ其ノ顛末ヲ知リ易カラシムヘシ

第四條 完結シタル文書ハ關係各課ニ於テ整理シ必要ノ期間之ヲ該課ニ保存スルモノトス

前項ノ文書ハ關係各課ニ於テ保存スルノ要ナキニ至リタルトキハ之ヲ庶務課ニ引繼クヘシ

宿直規程

第一條 宿直ハ庶務宿直及訓務宿直トス

第二條 本校判任官以下一名宛輪番ニ庶務宿直ニ服スヘシ  
訓務課ニ勤務ヲ命セラレタル者ハ訓務宿直ニ服スヘシ

第三條 當直者病氣又ハ自己ノ都合ニ依リ宿直スルコト能ハサルトキハ代人ヲ立ツヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ宿直ヲ免セラレタル者ハ此ノ限リニアラス

第四條 宿直時限ハ平日ニアリテハ當日退散時限ヨリ翌日出勤時限マテ休日ニアリ

テハ當日出勤時限ヨリ翌日出勤時限マテトス

第五條 當直者ニハ其前日マテニ庶務課ヨリ通知シ認印ヲ徴スヘシ

第六條 新任ノ者ハ着任ノ日ヨリ七日ヲ經テ宿直セシム

第七條 庶務宿直室ニ備フヘキ帳簿及器具等左ノ如シ

- 一 宿直名簿
  - 二 宿直日誌
  - 三 校務分掌規程
  - 四 文書收受簿
  - 五 文書交付簿
  - 六 印箱
  - 七 職員住所録
  - 八 郵便切手受拂簿
  - 九 公文書入
  - 十 電信用語符號表
  - 十一 郵便切手及端書
  - 十二 蠟燭燐寸受拂簿
  - 十三 生徒名簿
- 第八條 訓務宿直室ニ備フヘキ帳簿及器具等左ノ左シ
- 一 生徒名簿
  - 二 宿直名簿

三 印 箱 四 宿直日誌

五 文書交付簿 六 文書入

七 蠟燭燐寸受拂簿

第九條 宿直時間中に到達シタル文書及發送スヘキ文書ハ假ニ收受發送ノ手續ヲナシ翌日庶務課ニ引繼クヘシ

第十條 收受シタル文書中校長宛ノモノニシテ電報並至急ト表記シタル文書ハ直ニ校長ニ送付シテ認印ヲ受ケ其他ノ文書ハ翌日庶務課ニ引繼クヘシ當日休日ナルトキハ次ノ宿直者ニ引繼クヘシ

他ノ職員ニ宛テタル文書ハ前項ニ準シ取扱フヘシ

第十一條 宿直中に起リタル事件ハ總テ其ノ顛末ヲ日誌ニ記載シ庶務宿直ニアリテハ庶務課ニ訓務宿直ニアリテハ訓務課ニ毎週一回提出シテ學校長ノ閱ニ供スヘシ  
第十二條 宿直員ハ常ニ火ノ元其ノ他一般ノ取締ノ責ニ任シ日没後少クトモ二回校舎内外ヲ巡視シ小使ヲモ巡視セシムヘシ

第十三條 宿直中に郵便切手及蠟燭等受拂ヲナシタルトキハ其ノ都度受拂簿ニ記入スヘシ

物品會計規程細則

第一條 本校所屬物品ノ保管及出納ハ物品會計規則並文部省直轄各部物品會計規程ニ基キ此ノ細則ニ依リ處理スヘシ

第二條 物品ヲ大別シテ備品消耗品ニ分チ備品ノ用途ヲ專用共用ノ二種トス共用トハ各課及特別教室ニ於テ共用スルモノヲ云ヒ專用トハ職員各自ニ專用スルモノヲ云フ

但シ備品消耗品ノ區別ハ其ノ性質及用法ニ依リ之ヲ定ム

第三條 各課及特別教室ニ物品監守者及物品取扱主任ヲ置キ物品ノ監守及取扱ノ責ニ任シ專用品ニ就テハ專用者其ノ責ニ任セシム

但シ監守又ハ取扱ノ物品所屬區域ハ學校長之ヲ定ム

第四條 物品ノ出納ハ學校長ノ命令ニ依リ物品會計官吏之ヲ行フ

第五條 各課及特別教室ニ於テ所要ノ物品アルトキハ所定ノ物品請求用紙ニ品目數量所要ノ事由等ヲ詳記シ各主任者ノ檢印ヲ受ケ會計課ニ差出スヘシ但シ圖書ニアリテハ圖書課ニ請求スルモノトス

第六條 學術上機械ノ製作及修理ニ特殊ノ注意ヲ要スルカ又ハ當業者ヲ選擇スル必要アルモノハ圖案及仕様書又ハ便宜上各課及特別教室等ニ於テ當業者ノ見積書ヲ徵シ(外國製品等ニシテ見積書ヲ徵スル能ハサルトキハ之カ調書ヲ添付シ)會計課ニ請求スヘシ

第七條 會計課及圖書課ニ於テ物品ノ請求ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ圖書課ニ於テハ會計課ヲ經由シ物品會計官吏ヲ經テ學校長ニ提出シ受入及支給ノ命令ヲ受クヘシ

第八條 通常所用ノ物品ハ物品會計官吏ニ於テ一ケ年ノ所要高ヲ豫定シ學校長ノ許可ヲ受ケ一回若クハ數回ニ取纏メ購入ノ手續ヲ爲シ之ヲ倉庫ニ藏置シ各課及特別教室ノ請求ニ應ジ支給ノ手續ヲナスヘシ

第九條 生産又ハ寄贈ニ係ル物品ハ會計課ニ於テ其ノ品名數量及價格若クハ評價ヲ付シ藏置若クハ支給ノ手續ヲナスヘシ

第十條 物品會計官吏ニ於テ受入シタル物品ヲ支給セントスルトキハ番號ヲ現品ニ付シ共用品ト專用品トニ別チ備品支給簿ニ登記シ消耗品ニアリテハ消耗品支給簿ニ登記シタル後之ヲ物品監守者又ハ物品取扱主任ニ配付シ受領ノ證トシテ帳簿ニ捺印セシメ若クハ別ニ領收證書ヲ徵スヘシ

第十一條 物品監守者又ハ物品取扱主任物品ヲ受領シタルトキハ直チニ備品監守簿又ハ消耗品受拂簿ニ記帳スヘシ

第十二條 各課及特別教室ニ於テ不用ニ屬シタル物品アルトキハ物品監守者又ハ物品取扱主任ハ速カニ物品會計官吏ニ返付ノ手續ヲナスヘシ

第十三條 物品會計官吏前條物品ノ返付ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ將來使用ノ見込アルモノハ保管ノ手續ヲナシ使用ノ見込ナシト認メタルモノハ處分案ヲ具シ學校長ノ裁決ヲ請フヘシ

第十四條 物品ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ物品監守者其ノ事實ヲ詳記シ物品會計官吏ヲ經テ學校長ニ申報スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ物品檢閲委員ノ合議ヲ經テ學校長ノ裁定ヲ得責任者ヲシテ之ヲ修理セシメ又ハ代品若クハ相當代價ヲ辨償セシムルモノトス

第十五條 自然破損ノ物品ニシテ修理ノ上使用ノ見込アルモノハ修理ヲ請求シ其ノ見込ナキモノハ返付ノ手續ヲナスヘシ

第十六條 物品監守者又ハ物品取扱主任交代シタルトキハ前任者後任者立會ノ上引繼ヲナシ備品監守簿又ハ消耗品受拂簿ニ受繼年月日ヲ記シ且ツ記名捺印スヘシ

第十七條 物品會計官吏ハ毎年一回以上各監守者並ニ物品取扱主任ニ就キ帳簿ト現品ヲ對照査閲シ異狀ヲ認メタルトキハ學校長ニ申報シ其處分ヲ求ムルコトヲ得

第十八條 物品ノ出納ヲ明確ナラシムル爲メ物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ設ケ之ヲ整理スヘシ

一 普通備品出納簿

一 機械標本類出納簿

一 圖書出納簿

證票ニ基キ物品ノ出納ヲ記入シ在庫及共用物品ノ現在ヲ明ニス

一 消耗品出納簿

證票ニ基キ物品ノ出納ヲ記入シ在庫及消費高ヲ明ニス

一 備品支給簿

命令文書ニ基キ支給シタル物品ヲ記入シ物品會計官吏ト物品監守者又ハ專用者トノ受授ヲ明ニスルモノトス

一 消耗品支給簿

命令文書ニ基キ物品ヲ記入シ物品會計官吏ト物品取扱主任トノ受授ヲ明ニスルモノトス

第十九條 各課及各特別教室ニ於テハ備品監守簿、消耗品受拂簿及郵便切手受拂簿ヲ備ヘテ物品ノ現存及受拂ヲ明確ナラシムヘシ但シ圖書ハ原簿ヲ以テ本簿ニ代用

スルコトヲ得

第二十條 學校長ハ物品檢閲ノ爲メ物品檢閲委員長一名委員若干名ヲ設ケ職員中ヨリ之ヲ命ス

物品檢閲委員長及委員ノ任期ハ一ケ年トス

第二十一條 檢閲ヲ分チテ定期及臨時ノ二トス

定期檢閲ハ毎年一回之ヲ施行シ臨時檢閲ハ必要ト認メタルトキ臨時ニ之ヲ施行ス  
第二十二條 物品檢閲ノ時日ハ委員長之ヲ定メ豫メ各物品監守者及物品取扱主任ニ通知スルモノトス但シ臨時ニ施行スルモノハ此ノ限ニアラス

第二十三條 物品檢閲委員ノ檢閲スヘキ要項左ノ如シ

- 一 物品保管ノ適否
- 一 物品亡失毀損ノ有無
- 一 物品ノ使用並消費ノ適否
- 一 其ノ他必要ト認メタル事項

第二十四條 物品檢閲ノ際ハ在庫ノ物品ニ就テハ物品會計官吏又ハ代理者使用中ノ物品ニ就テハ物品監守者又ハ物品取扱主任其ノ席ニ列シテ檢閲ヲ受クヘシ

第二十五條 物品檢閲委員ニ於テ檢閲上故障ナシト認ムルトキハ帳簿ニ捺印シテ之ヲ證スヘシ若シ故障アルトキハ當該責任者ヨリ始末書ヲ差出サシメ處分了ルヲ俟チテ前記ノ手續ヲナスヘシ

第二十六條 物品檢閲委員其ノ檢閲ヲ終リタルトキハ檢閲上ノ顛末及意見ヲ具シ委員長ヲ經テ學校長ニ申報スヘシ

第二十七條 帳簿様式別記ノ通り相定ム

(帳簿様式ハ略ス)



職員

學校長

文學士

渡邊又次郎

教授

漢文

評議員 文學士

村上龍英

圖書

生徒監

池田嘉吉

國語

評議員 文學士

山内二郎

英語

評議員 文學士

皆川正禧

獨語

評議員 文學士

小牧健夫

物理、自然科學

理學士

四野宮豐治

獨語

文學士

中島一郎

國語

文學士

栗原武一郎

歷史

評議員 文學士

牧野純一

(大正十年六月十五日現在)

修身	數學	地理、歷史	自然科學、植物及動物	英語	漢文	英語	心理及論理	獨語	數學	體操	體操
主任	主任	主任									主任心得
生徒監	文學士	文學士	バチエラー オプ アーツ	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	文學士	陸軍歩兵少佐
岡村喜代志	脇坂無為	龜井高孝	野原茂六	久保謙	高田眞治	長谷川四郎	小野島右左雄	實吉捷郎	相馬良馬	石川銳二	多治見國司

(就職順)

獨語	地質及鑛物	體操	法制及經濟	英語	化學、自然科學	劍道	書記
文學士	文學士	法學士	法學士	理學士	授業囑託		
生沼豊彦	野村正雄	岡部平太	田口環	倉橋治助	富樫鐵次郎		

マスター  
オプ  
アーツ  
トマス  
イー  
ジョ  
オンス

雇

學校醫

學級主任

文科第二學年甲ノ一學級

文科第二學年甲ノ二學級

文科第二學年乙學級

四六

高山常雄

三村舉知

入佐文夫

吉田健一

鳥羽田卓

醫學士 沼野維壽老

千葉醫學士 大津寅

教授 村上龍英

教授 皆川正禧

教授 小牧健夫

理科第二學年甲學級

理科第二學年乙學級

文科第一學年甲ノ一學級

文科第一學年甲ノ二學級

文科第一學年乙學級

理科第一學年甲學級

理科第一學年乙學級

教務課

課長 (臨時)

教授 脇坂無為

教授 栗原武一郎

教授 中島一一郎

教授 高田直治

教授 龜井高孝

教授 野原茂六

教授 山内二郎

教授 村上龍英

囑託 富樫鐵次郎

書記 田添三喜太

書記 石川潔

雇 鳥羽田卓

四七

課長 訓務課 生徒監

教授	池田嘉吉
講師	石川銳二
講師	多治見國司
囑託	富樫鐵次郎
書記	樋口由之助
雇	高山常雄
雇	三村舉知
教授	山内二郎
書記	田添三喜太
書記	石川一潔
雇	吉田健一

課長 圖書課

(兼) (兼) (兼) (兼)

庶務課

課長

教授	久保謙
書記	樋口由之助
雇	鳥羽田卓

會計課

課長

物品會計官吏書記

岡本耀	(兼)
高山常雄	(兼)
三村舉知	
入佐文夫	
吉田健一	

生徒

文科第二學年甲ノ一學級

(三十七人)

◎印ハ學級總代  
○印ハ副總代

(大正十年六月十五日現在)

水戸	上田	都留	青森	沖繩第一	水戸	東京第四	横須賀	宇都宮	栃木	千葉	京華	大谷義忠	茨城
大内定	小川榮一	梅本健男	内田信節	上江洲由文	岩田一	石崎一	猪股英夫	伊澤武吉	青木秀夫	足立剛二郎	大谷義忠	大谷義忠	大谷義忠
茨城	長野	奈良	山形	沖繩	茨城	東京	宮城	栃木	栃木	千葉	大谷義忠	大谷義忠	大谷義忠
土浦	下妻	東京第一	東京第三	太田	第一横濱	第二横濱	東京第一	佐野	水戸	京華	大谷義忠	大谷義忠	大谷義忠
高崎光久	關野嘉雄	○鈴木秀三	須賀秀雄	柴沼直	阪田純雄	小山晴	小林衛	桑田順	川島涉	大谷義忠	大谷義忠	大谷義忠	大谷義忠
茨城	茨城	東京	東京	茨城	神奈川	神奈川	東京	栃木	岡山	大谷義忠	大谷義忠	大谷義忠	大谷義忠

東京第四	甲府	第一橫濱	下妻	鳥山	京華	東京高師附屬	東京第四	龍ヶ崎	高千穂	開成	太田
岩田誠	糸賀篤	和泉英雄	飯塚準	平野博	一柳綠	西川正脩	永井牧夫	中野四郎	津田宣彦	○瀧澤太助	高和泰
愛知	山梨	神奈川	茨城	栃木	兵庫	栃木	福井	千葉	山口	長野	茨城
成	下	札幌第二	下妻	京	水戸	日本大學附屬	第二橫濱	早稻田	鹿兒島第一	水戸	福田稔
小川武夫	江戶英雄	江藤誠一	內田雄一	渡邊虎吉	吉久保恒之助	矢澤宣運	持丸丈夫	牧野耐一郎	町田稔	町田稔	鹿兒島
千葉	茨城	靜岡	茨城	秋田	茨城	東京	神奈川	岡山	岡山	岡山	茨城

文科第二學年甲ノ二學級 (三十六人)

靜岡	成東	青山學院	第一橫濱	相馬	沖繩第一	上田	栃木	太田	浦和	麻布	松江	成城
竹村寅三	高橋伊元	田部信保	田口茂雄	○鈴木直人	重信饒裁	佐藤雄四郎	佐藤彰三	小松崎寅雄	木戸和喜男	木田徹郎	大森吉盛	大泉不二夫
靜岡	千葉	東京	埼玉	福島	鹿兒島	長野	栃木	茨城	埼玉	宮城	島根	東京
東京第一	東京第一	下妻	第二橫濱	諏訪	水戸	立教	水戸	開成	水戸	嘉穗	東京第一	小濱
黛虎造	○松本秀彦	松崎靜男	間野延太郎	平田早苗	林龍	根本康	西川武	成瀬透	德宿太重	唐木憲吉	外池重輔	辻利信
東京	福井	茨城	岡山	新潟	茨城	茨城	茨城	東京	茨城	長野	茨城	福井

第一橫濱 矢口順道 神奈川

文科第二學年乙學級

明治 和田壽次郎 東京  
(三十六人)

太田 安島三郎 茨城

水戸 秋永英七 茨城

高知第一 ○有光 毅 高知

郁文館 伊藤進 千葉

仙臺第一(指定) 薄井己亥 茨城

太田 大津正次 茨城

東京第四 大槻春彦 東京

開成 岡崎英城 宮城

土浦 狩谷幸知 茨城

修猷館 木村誠 福岡

第一橫濱 小泉彌六 千葉

安房 座間策郎 千葉

橫須賀 榊原虎彦 神奈川

學習院 勝田二郎 兵庫

水戸 鈴木長 茨城

旅順 瀨之口虎男 鹿兒島

一之關 ○高橋德樹 福島

宇都宮 瀧澤俊郎 長野

逗子開成 千葉征露 神奈川

東京第一 土屋千春 福岡

富岡 中里元德 群馬

東京第一 中村健彦 東京

京北 長坂勝一 東京

京北 野手克郎 茨城

弘前 長谷川信 青森

木更津 廣部忠彦 千葉

小田原 松井史亨 静岡

太田 宮崎俊夫 茨城

錦城 宮本尅夫 千葉

理科第二學年甲學級

(三十四人)

水戸 蘆川正信 茨城

小樽 伊藤正二 北海道

開成 石井執三 茨城

水海道 石塚晴美 茨城

高田 大瀧讓 新潟

小田原 山口米丸 神奈川

正則 山崎昂 千葉

札幌第一 山下清 北海道

順天 山田憲太郎 群馬

目白 山中舜次 茨城

龍崎 吉原真 茨城

膳所 渡邊周 東京

明治學院 大村重光 東京

佐野 岡巖一 栃木

東京第四 窪田敏夫 東京

海城 桑武彦 東京

麻布 小平孝雄 東京

太田	五來	達	茨城	水戸	古谷	寅雄	東京
成東	佐久間	友二千	葉	開成	細井	淙	東京
聖學院	◎須藤	利一	埼玉	水海道	堀越	九一	茨城
字都宮	袖山	喜久雄	茨城	東京第四	松葉	盛重	埼玉
小田原	武田	悅次郎	神奈川	海城	宮地	武夫	東京
下妻	塚原	亮	栃木	猶興館	本山	虎三郎	長崎
東京第三	照井	達夫	青森	眞岡	柳田	貫一郎	栃木
川越	仲篤	司	埼玉	宇都宮	山口	忠一	栃木
太田	沼尻	源一郎	茨城	順天	○山口	敏宗	茨城
聖學院	野手	佛士	茨城	仙臺第一	山口	葭江	東京
東京高師附屬	平山	嵩	東京	水戸	横須賀	善司	茨城
岡山	博見	哲太郎	岡山	横須賀	渡邊	一郎	神奈川

理科第二學年乙學級

(三十二人)

臺北	飯野	鎮雄	東京	磐城	佐野	龍雄	福井
太田	宇野	留吉	茨城	水戸	笹屋	次雄	長崎
甲府	大柴	俊一	山梨	宇都宮	島田	正憲	栃木
海城	大西	久	茨城	沖繩第一	謝花	昇清	沖繩
麻布	大山	義年	茨城	東北學院	新藤	六郎	群馬
獨逸協會	兼田	三郎	青森	佐原	須賀田	謙次郎	茨城
東京第三	川井	實	東京	千葉	諏訪	敬三郎	千葉
濟々	◎蒲生	義男	東京	水戸	鈴木	重一	茨城
東京第四	木村	康一	東京	長崎	蘇記	之	支那
成城	國正	靜己	愛媛	水戸	田澤	信五郎	茨城
厚木	小泉	秀雄	神奈川	前橋	○田中	久	群馬
村松	小玉	清	新潟	成東	西郡	彦嗣	千葉
立教	三枝	義夫	茨城	安房	野澤	貞智	新潟



開成	服部鐵雄	東京	豐浦	松井三郎	山口
水戸	深作英	茨城	大成	森義雄	東京
前橋	福島正	群馬	太田	山形賀	茨城
文科第一學年甲ノ一學級 (四十人)					
下妻	赤城宗德	茨城	東京高師附屬	垣内勉	東京
京城	秋山準	茨城	明治	上加世田成法	東京
木更津	朝生要人	千葉	千葉	川口皓三郎	千葉
開成	天野宗一	東京	日本大學附屬	川崎千春	東京
長野(松尾)	伊澤庚子郎	栃木	東京第四	河田義郎	埼玉
千葉	伊藤俣郎	千葉	成東	久保田敏	千葉
芝	鵜澤司	東京	沼田	倉敷英一	鳥取
大田原	大竹寶	栃木	沼田	桑原重吉	群馬
早稻田	大伴二郎	愛知	東京第四	小島茂雄	東京

相馬	小室虎雄	秋田	東京第一	萩原重雄	山梨
水戸	後藤正明	茨城	開成	橋爪恭一	三重
水戸	鯉淵次夫	茨城	安房	平野禎男	千葉
第一橫濱	佐藤勇	神奈川	伊丹	福島嘉雄	兵庫
眞岡	佐藤正一	茨城	白石	藤井武夫	岐阜
村上	齊藤香一	新潟	早稻田	法華津孝太	愛媛
太田	齊藤進	茨城	目白	星野秀雄	東京
東京第一	○清水二郎	東京	水戸	松本稔	兵庫
安房	◎須藤文雄	千葉	開成	矢野康夫	東京
第二鹿兒島	中村惠治	鹿兒島	京北	若松宗一郎	東京
水戸	中山好一	茨城	龍ヶ崎	渡邊重	千葉
文科第一學年甲ノ二學級 (三十九人)					
名教	磯村茂	東京	東京第四	一毛正捷	東京

東京第一	相馬	明治	石川	東京第四	東京第一	水戸	目白	佐野	青森	水戸	正則	第二横濱
齊藤	佐藤	小村	菊地	片桐	改野	大谷	榎本	内田	内田	上野	祝廷	岩田
長治	一	靖吉	安郎	千春	五郎	政雄	勝造	仙次	收藏	恆彌	三郎	吉博
東京	福島	神奈川	福島	岐阜	兵庫	茨城	東京	栃木	山形	茨城	鹿兒島	神奈川
甲府	京華	東京第四	東京第四	東京高師附屬	眞岡	第一横濱	第二横濱	眞岡	浦和	佐原	東京第一	水戸
長谷川	長谷川	西村	長澤	中島	直井	谷澤	竹内	高橋	鈴木	坂本	酒井	齊藤
知之助	恭三	程作	通明	道雄	泰祐	信雄	保高	一郎	良一	本久	義夫	藤一
山梨	東京	山口	静岡	熊本	栃木	神奈川	神奈川	茨城	千葉	茨城	東京	秋田

佐原	東京第一	長野	水戸	早稻田	東京高師附屬	東京高師附屬	聖學院	宇都宮	相馬	臺北	臺北	青山學院
大野	尾澤	小川	江幡	牛田	青木	林不二	樋口	福田	伏見	堀内	文科第一	濱野
政夫	良彦	裕人	寬夫	彌六	四郎	二雄	重雄	貞吉	猛彌	政成	第一學年	一雄
千葉	東京	長野	茨城	山梨	東京	福島	東京	栃木	福島	岩手	乙學級	兵庫
東京第一	佐倉	海城	眞岡	土浦	小田原	土浦	土浦	宇都宮	早稻田	(四十人)	開成	宮川
小林	木倉	鎌田	岡部	岡部	岡田	宮本	山田	山野	吉村	吉村	實	歐太郎
敏雄	和一郎	治	英四郎	重信	實	宣一	一	林	榮吉	榮吉	神奈川	熊本
東京	千葉	千葉	栃木	茨城	神奈川	茨城	茨城	栃木	東京	東京		

柏壁	小林嘉明	埼玉	成東	林房吉	千葉
開成	佐伯義明	富山	磐城	比佐久馬	福島
水戸	笹島政吉	茨城	日川	堀内熊男	山梨
厚木	澁谷準藏	神奈川	東京第一	前澤秀榮	福島
青山學院	庄田順一	東京	郁文館	松井牧次	静岡
築館	高橋晃	宮城	第一橫濱	黛克己	群馬
第一橫濱	高橋陸與雄	青森	岸和田	峰間信太郎	東京
千葉	土屋一民	千葉	東京第四	村田英彦	東京
金澤第二	寺本直吉	石川	岩國	目加田誠	山口
東京第一	中澤匡	東京	大成	山田郁夫	千葉
開成	中村藤三	東京	甲府	○湯原直	山梨
東京第一	成田源四郎	東京	日本大學附屬	橫田憲喜	愛知
攻玉社	長谷川則文	山口	東京第一	○若見一郎	長崎

今宮	脇田新太郎	大阪	土浦	渡邊存所	茨城
小田原	◎青木勝治	神奈川	太田	岡部一雄	茨城
麻布	青木連次	東京	開成	賀田終吉	山口
佐野	赤堀英三	群馬	函館	加藤慶造	北海道
早稻田	淺井行男	東京	水戸	神谷鐘吉	茨城
水海道	荒井元	茨城	東京第一	北里寅男	東京
太田	池澤保	兵庫	德島	志摩寛一	德島
日本大學附屬	池田金三	茨城	前橋	鹽原三郎	群馬
小田原	石井坦	神奈川	東京第一	須崎進二	東京
麻布	岩崎勝直	東京	東京第四	鈴木重大	東京
麻布	臼井宏次	東京	郁文館	隅田七郎	神奈川
京北	遠藤敏治	東京	埼玉	關根三郎	埼玉

理科第一學年甲學級

(四十人)

沼津	安積	大	順	水	佐	佐	麻	高	水	太	磐
井出七郎	猪狩正雄	新井晋	天	戸	野	倉	布	千	戸	田	城
静岡	福島	神奈川	平野生三郎	檜山徳次	羽鳥庫次	羽賀正義	中西篤	外波志満	種子島秀彦	立川辰之介	高柳博明
			東京	茨城	栃木	新潟	和歌山	東京	茨城	茨城	福島

理科第一學年乙學級

(四十人)

京	下	開	開	土	佐	長	海	東京高師附屬	順	沼	札幌第一
城	妻	成	成	浦	野	岡	草	的場愼一	天	田	藤田幸隆
◎石島勝郎	飯島寅吉	井上與惣一	吉村辰夫	湯原益治郎	山崎久一	柳下鋼造	松本厚	松平日出男	松	古野晋二	北海道
茨城	茨城	京都	東京	茨城	栃木	新潟	群馬	東京	和歌山	大分	

水	開	上	水	千	水	水	長	會	葦	太	京	磐
戸	成	田	戸	葉	戸	戸	岡	津	山	田	北	城
小日向清郎	小林一二三	○兒玉元一	黒澤辰男	倉田庫司	菊池武定	菊池武定	木村玄洋	甲斐孝助	岡部次雄	大和田信道	大成龍雄	沼尻伊三郎
東京	東京	長野	茨城	千葉	茨城	茨城	新潟	福島	静岡	茨城	廣島	福島

堺	土	千	獨	小	水	開	東	錦	木	安	東	眞
	浦	葉	逸	倉	戸	成	京	城	更	房	京	岡
藤村紫郎	原田五十吉	畑仲彦三	林正七	八田稠	角田種氏	高垣清藏	島崎松雄	新藤常三	篠原登	酒井博夫	酒井欣郎	河野寛
京都	茨城	埼玉	茨城	福岡	茨城	東京	東京	栃木	山梨	千葉	東京	栃木

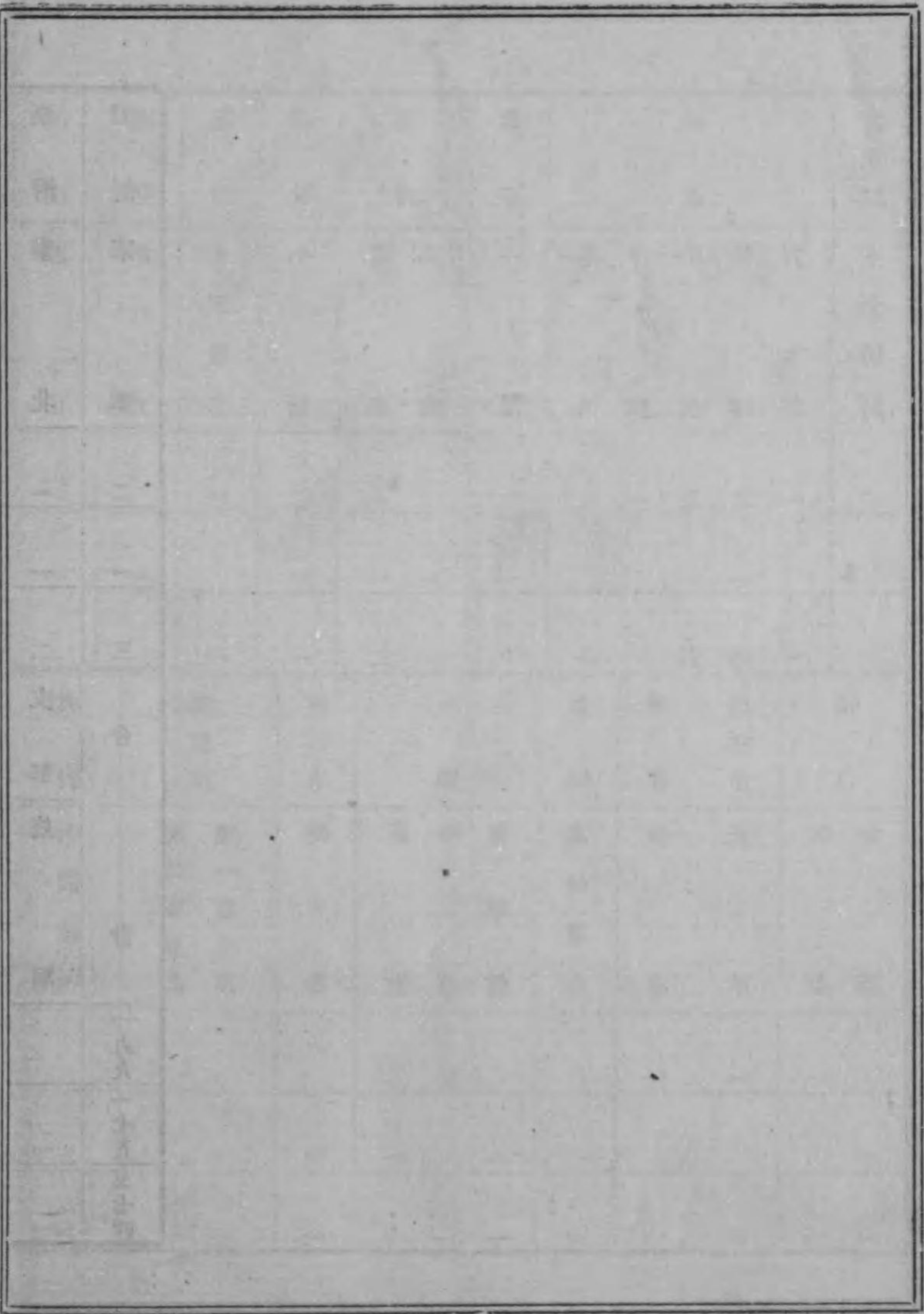
生徒出身學校府縣別調

東京										北海道			道府縣	
攻	錦	正	開	東	東	東	學	東		小	函	札	札	出
玉	城	則	成	東	東	東	習	京		樽	館	幌	幌	身
社				第	第	第	院	附				第	第	學
				四	三	一		屬				二	一	校
				一	一	一								第一
				二	二	四								學
				一	一	一								年
				六	七	三								第二
				七	三	七								學
				一	一	一								年
				八	八	二								計
				一	一	一								
				二	二	一								
				二	三	一								
				一	一	一								
				一	一	一								
				三	二	二								
				四	五	二								
				一	二	三								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
				二	三	二								
				三	四	三								
				一	二	二								
			</											

栃 木		茨 城				千 葉		
大 田 原	栃 佐 野 木	眞 岡	宇 宮	水 龍 太 下 土 水	龍 太 下 土 水	水 龍 太 下 土 水	大 安 木 成 佐	更 東 倉
一	四	五	三	一	一	六	三	七
二	二	一	五	二	二	〇	六	二
一	二	六	六	八	三	三	一	六
宮 城	長 野	滋 賀	山 梨	靜 岡	栃 木	鳥 山	烏 山	烏 山
白 石	築 館	仙 臺	第 一	諏 訪	沼 津	沼 津	沼 津	沼 津
一	一	一	二	一	一	一	一	一
二	二	一	二	一	一	一	一	一
一	一	二	一	一	一	一	一	一

兵 庫	神 奈 川				大 阪	東 京							
伊 丹	逗 子 開 成	横 須 賀	厚 木	小 田 原	第 一 横 濱	第 二 横 濱	今 岸 和 宮	岸 和 宮	明 治 學 院	青 山 學 院	名 教 育	日 本 大 學 附 屬	明 治
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
千 葉	群 馬		埼 玉		新 潟		長 崎		猶 興 館	長 崎	猶 興 館	長 崎	猶 興 館
佐 原	宮 岡	沼 田	前 橋	埼 玉	粕 壁	川 越	浦 和	村 上	村 松	高 田	長 岡	猶 興 館	長 崎
二	五	三	一	一	一	一	一	一	一	二	一	一	一
一	二	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	七	一	三	三	一	一	一	二	一	一	二	一	一





### 水戸高等學校校友會會則 大正十一年

第一條 本會ハ水戸高等學校校友會ト稱ス

第二條 本會ノ目的ハ會員ノ親睦ヲ厚クシ知徳ヲ磨キ身體ヲ練リ以テ校風ヲ振作スルニ在リ

第三條 本會ノ會員ハ左ノ二種ヨリ成ル

- 一 通常會員 本校生徒
- 一 特別會員 本校職員

第四條 本會ニ左ノ諸部ヲ置ク

- 一 劍道部
- 一 柔道部
- 一 弓術部
- 一 ランニング部
- 一 旅行部



- 一 相撲部
- 一 庭球部
- 一 野球部
- 一 辯論部
- 一 會誌部

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 一 會長 一名 學校長ヲ推戴ス
- 一 副會長 一名若クハ二名 特別會員中ヨリ會長之ヲ委囑ス
- 一 部長各部一名 特別會員中ヨリ會長之ヲ委囑ス
- 一 幹事二名(文科及理科各一名) 部長會ノ推薦ニ依リ通常會員中ヨリ會長之ヲ委囑ス
- 一 委員 各部若干名 通常會員ノ互選セル者ノ中ニ就キ部長會ノ決議ニ依リ會長之ヲ委囑ス

一 主計一名 本校書記中ヨリ會長之ヲ委囑ス

第六條 本會役員ノ任務ハ左ノ如シ

- 一 會長ハ會務ヲ總攬ス
- 一 副會長ハ會長ヲ輔佐シ庶務及會計ヲ管理ス
- 一 部長ハ當該部ノ事務ヲ管理ス
- 一 幹事ハ副會長監督ノ下ニ會務ヲ分掌ス
- 一 委員ハ各部長監督ノ下ニ當該部ノ常務ヲ處理ス
- 一 主計ハ會計ニ關スル事務ヲ處理ス

第七條 幹事及委員ノ任期ハ一箇年トシ毎年二月末日ニ更任スルモノトス

第八條 會長ハ必要ニ應ジテ役員會ヲ開ク

役員會ハ左ノ役員ヲ以テ之ヲ組織ス

會長、副會長、部長、幹事、委員(代表者一名)、主計

第九條 本會ノ會費ヲ左ノ如ク定ム

- 一 通常會員ハ入會金貳圓ヲ第一回授業料納付期日ニ納ムルモノトス
  - 一 通常會員ハ會費トシテ毎學期金貳圓ヲ授業料納付期日ニ納ムルモノトス
  - 一 特別會員ハ一定ノ金額ヲ釀出スルモノトス
- 第十條 本會ノ會計年度ハ毎年三月一日ニ始マリ翌年二月末日ニ終ル
- 第十一條 本會ノ豫算ハ各部長及幹事ノ合議ヲ經テ會長之ヲ決定ス
- 第十二條 各部委員ハ部費ノ配當ヲ受ケタル時ハ其ノ年度中ノ費途豫算表ヲ調製シ部長ノ承認ヲ受クヘキモノトス
- 第十三條 各部委員ハ毎年度歳出入決算報告書ヲ調製シ毎年三月上旬マテニ各部長ニ提出スルモノトス
- 各部長ハ檢印ノ上之ヲ主計ニ回付シ主計ハ審査ノ上副會長ヲ經テ之ヲ會長ニ報告スルモノトス

第十四條 本會會計規程ハ別ニ之ヲ定ム

### 水戸高等學校校友會會計規程

- 第一條 現金並物品ノ出納ハ主計一切之ヲ掌ル
- 第二條 現金ハ信用アル銀行ノ預金トシテ之ヲ保管ス
- 第三條 物品ヲ購入又ハ修繕セントスルトキハ各部委員ハ規定ノ帳簿ニ品目、概算額等ヲ記シ部長ノ檢印ヲ經テ主計ニ回付シタル後購入又ハ修繕ノ手續ヲナスモノトス
- 第四條 主計ハ物品ヲ商人等ヨリ受領シタルトキハ各部ヨリ回付セラレタル帳簿ト校合調査シテ支拂額ヲ記入シ捺印ノ上該帳簿ト共ニ物品ヲ各部委員ニ引渡スモノトス
- 主計ハ其ノ際別ニ備フル豫算差引簿ニ必要ノ事項ヲ記入スルモノトス
- 第五條 副會長ハ時々豫算差引簿及支拂殘額ヲ檢閱ス
- 第六條 各部ニハ備品明細簿ヲ備ヘ各部委員之ヲ保管ス
- 第七條 會長ハ必要ニ應シ特別會員若干名ニ會計並物品ニ關スル檢閲ヲ委囑ス
- 第八條 主計ニハ役員會ノ議ヲ經テ若干ノ報酬ヲナスモノトス

第八條 高等學校ハ其ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス  
第九條 高等學校ハ其ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス  
第十條 高等學校ハ其ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス  
第十一條 高等學校ハ其ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス  
第十二條 高等學校ハ其ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス  
第十三條 高等學校ハ其ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス  
第十四條 高等學校ハ其ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス  
第十五條 高等學校ハ其ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス  
第十六條 高等學校ハ其ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス  
第十七條 高等學校ハ其ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス  
第十八條 高等學校ハ其ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス  
第十九條 高等學校ハ其ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス  
第二十條 高等學校ハ其ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス

參 照

高等學校令(抄)

- 第一條 高等學校ハ男子ノ高等普通教育ヲ完成スルヲ以テ目的トシ特ニ國民道德ノ充實ニカムヘキモノトス
- 第七條 高等學校ノ修業年限ハ七年トシ高等科三年尋常科四年トス
- 高等學校ハ高等科ノミヲ置クコトヲ得
- 第八條 高等學校高等科ヲ分チテ文科及理科トス
- 第十二條 高等學校高等科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學校尋常科ヲ修了シタル者、中學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者トス
- 第十三條 高等學校ノ生徒定數ハ高等科四百八十人以内尋常科三百二十人以内トシ
- 第七條第二項ノ高等學校ニ在リテハ專攻科ヲ除キ六百人以上トス
- 第十四條 高等學校ニ於テハ同科同學年ノ生徒ヲ以テ學級ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒定數ハ四十人以内トス

第十五條 高等學校ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ學科目ノ種類ニ從ヒ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第十六條 高等學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル高等學校教員免許狀ヲ有スル者タルコトヲ要ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

高等學校教員免許狀ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第十七條 高等學校ノ設備、編制、學科目及其ノ程度、教科書並生徒ノ入學退學及懲戒、授業料入學料等ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

高等學校規程(抄)

第一章 學科課程及教科書

第二節 高等科

第四條 高等科文科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、歷史、地理、哲學概説、心理及論理、法制及經濟、數學、自然科學、體操トス

高等科理科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、第一外國語、第二外國語、數學、物理、化學、植物及動物、礦物及地質、心理、法制及經濟、圖畫、體操トス  
外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス

第二外國語ハ隨意科目トス

第五條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ趣旨ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ道德ノ要領ヲ授ケ國家、社會、家族ニ對スル責務並人格修養ニ關シ必要ナル事項ヲ知ラシメ特ニ我國民道德ヲ會得シ其ノ實行ニ努メシムヘシ

第六條 國語及漢文ハ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ智德ヲ啓發シ文學上ノ趣味ヲ養フヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ文科ニ在リテハ近世、近古及中古ノ國文ヲ授ケ進ミテ上古文ノ一般ニ及ホシ又普通ノ漢文ヲ講讀セシメ國語文法及國文學史ノ大要ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

理科ニ在リテハ近世及近古ノ國文並普通ノ漢文ヲ授ケ作文ニ習熟セシムヘシ

第七條 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ニ依リテ思想ヲ表ハスノ能力ヲ得シメ兼テ智徳ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字、讀方、譯解、話方、作文、書取及文法ヲ授クヘシ

第八條 歴史ハ重要ナル古今ノ事蹟ヲ知ラシメ邦國ノ盛衰、文化ノ發達ヲ理會セシメ特ニ我國運發展ノ由來、國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ國民性格ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

歴史ハ日本歴史、東洋歴史及西洋歴史ヲ授クヘシ

第九條 地理ハ我國及重ナル世界各國ノ現状ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス  
地理ハ我國及諸外國ノ政治、經濟等ニ關スル地理上ノ知識ヲ授クヘシ

第十條 哲學概説ハ思想界ニ關スル智識ヲ與ヘ哲學ノ概念ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

哲學概説ハ東洋及西洋ノ哲學、宗教等ニ就キテ其ノ大要ヲ授クヘシ

第十一條 心理及論理ハ心意ニ關スル知識ヲ得シメ思考ヲ鍛鍊セシムルヲ以テ要旨トス

心理及論理ハ各種ノ精神作用、思考ノ原則及其ノ方法ノ概要ヲ授クヘシ

第十二條 數學ハ數理ヲ會得セシメ計算應用ニ熟セシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ文科ニ在リテハ數學諸論ノ大要ヲ授ケ、理科ニ在リテハ代數、立體幾何、

三角法、初等解析幾何、初等微分積分及初等力學ヲ授クヘシ

第十三條 自然科學ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

自然科學ハ生物、地質、物理、化學等ニ關スル主要ナル事項ヲ授クヘシ

第十四條 物理、化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則ヲ理會セシメ之カ  
應用ヲ示シ兼テ觀察工夫ノ力ヲ養フヲ以テ要旨トス

物理ハ力學、物性、音響、熱、光、磁氣、電氣ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ  
化學ハ無機化學及有機化學ヲ授ケ又主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十五條 植物及動物、礦物及地質ハ天然物ニ關スル智識ヲ與ヘ之カ應用ヲ示シ兼  
テ觀察ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

植物及動物ハ生物ノ形態、生理、分類、進化ニ關スル知識ヲ授ケ又主要ナル實驗  
ヲ課スヘシ

礦物及地質ハ礦物ノ產狀、性質、用途、地球ノ構成及其ノ變遷ニ關スル知識ヲ授  
ケ又便宜主要ナル實驗ヲ課スヘシ

第十六條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民生活ニ必要ナル知識ヲ  
得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常ノ生活ニ適切ナル法制上及經濟財政上ノ事項  
ヲ授クヘシ

第十七條 圖畫ハ形體ヲ正確且自由ニ畫クノ能力ヲ得シメ意匠ヲ練リ思考ヲ精確ナ  
ラシムルヲ以テ要旨トス

圖畫ハ自在畫、平面幾何畫、立體幾何畫ヲ授クヘシ

第十八條 體操ハ身體ヲ健全ニシ動作ヲ敏活ナラシメ剛健ノ精神ト規律ヲ守リ協同  
ヲ尙フノ習慣トヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ教練及體操ヲ授クヘシ又劍道及柔道ヲ加フルコトヲ得

第十九條 文科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科 目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	六	五	五
第一外國語	九	八	八
第二外國語	(四)	(四)	(四)

歷史	地理	哲學概說	心理及論理	法制及經濟	數學	自然科學	體操	計
三	二				三	二	三	(二九) (三三)
五	八		二	二		三	三	(二九) (三三)
四	八	三	二			三	三	(二八) (三二)

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語	一一	一〇	一〇

第二外國語	(三)	(三)	(三)
計	(三一) (三四)	(三一) (三四)	(三〇) (三三)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第二十條 理科ノ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語及漢文	四	二	
第一外國語	八	六	六
第二外國語	(四)	(四)	(四)
數學	四	四	四
物理學		三	三
化學		三	三
植物及動物	二	二	二
講義			二
實驗			二
計	(三一) (三四)	(三一) (三四)	(三〇) (三三)

礦物及地質	二	二	二	二
心理		二		二
法制及經濟	二			
圖畫	二	二		二
體操	三	三		三
計	(三二) 二八	(三二) 二八		(三二) 二八

第二學年ノ數學(二)及圖畫(二)ト第三學年ノ植物及動物(講義ニ實驗二)トハ生徒ヲシテ其ノ一ヲ選擇セシムルモノトス

第一外國語ハ尋常科又ハ中學校ニ於テ生徒ノ履修シタル外國語トス但シ生徒ノ志望ニ依リ第一外國語ノ種類ヲ轉換スルコトヲ得シム此ノ場合ニ於テハ各學年ニ於ケル第一外國語及第二外國語ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科	學年	第一學年	第二學年	第三學年
第一外國語		一〇	九	九
第二外國語		(三)	(三)	(三)



計

(三〇)

(三一)

(三二)

第二外國語ヲ修メサル者ニ對シテハ其ノ教授時數ヲ便宜他ノ學科目ニ配當スルコトヲ得

第四節 教授上ノ注意

第二十二條 高等學校ニ於テハ高等學校令第一條ノ趣旨ニ依リ生徒ヲ教育シ殊ニ國民道德ノ充實ニ關聯セル事項ハ何レノ學科目ニ於テモ常ニ留意シテ教授センコトヲ要ス  
各學科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ要ス

第五節 教科書

第二十三條 高等學校ノ教科書ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ但シ文部大臣ノ檢定ヲ經タル中學校教科書ヲ尋常科ノ教科書トシテ使用スル場合ニ於テハ認可ヲ要セス

第二章 學年、教授日數及式日

第二十四條 學年ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテトス但シ九月一日ヨリ翌年八月三十一日マテト爲スコトヲ得

第二十五條 教授日數ハ尋常科ニ在リテハ每學年二百二十日以上高等科ニ在リテハ每學年二百日以上專攻科ニ在リテハ百九十日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス  
試験及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十六條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 紀元節、天長節祝日及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編制

第二十八條 高等科ニ於テハ國語及漢文、外國語、數學ヲ教授スル場合ヲ除ク外文

部大臣ノ認可ヲ受ケ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第四章 設 備

第三十一條 高等學校ニ於テハ校地、校舎、體操場及校具ヲ備フヘシ

第三十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ且道德上及衛生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條 校舎ニハ教室、事務室其ノ他必要ナル實驗室、圖書室、器械室、標本室等ヲ備フヘシ

校舎ハ教授上、管理上及衛生上適當ニシテ堅牢ナルコトヲ要ス

第三十四條 校具ハ教授上必要ナル圖書、機械、器具、標本、模型等トス

第三十五條 高等學校ニ於テハ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外左ノ表簿ヲ備フヘシ

- 一 學則 日課表及教科用圖書配當表
- 二 職員ノ名簿及履屋書並擔任學科目及時間表
- 三 生徒學籍簿、出席簿、身體檢查ニ關スル表簿及入營延期又ハ徵兵猶豫ニ關ス

ル書類

四 試験ノ問題、答案及成績表

五 資産原簿、出納簿、經費豫算、決算ニ關スル帳簿及圖書、機械、器具、標本、

模型ノ目錄

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月日、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、卒業ノ年月日、入學試験ノ有無、轉學退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ

第六章 入學、在學、休學、退學及懲戒

第三十八條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス

第四十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ高等科ノ入學ニ關シ中學校第四學年ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力アリト認ム

一 他ノ高等學校尋常科ヲ修了シタル者

二 高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者

三 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

四 文部大臣ニ於テ高等學校高等科ノ入學ニ關シ指定シタル者

五 文部大臣ニ於テ一般ノ專門學校ノ入學ニ關シ中學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定シタル者

前項ノ資格試験ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第四十四條 當該高等學校尋常科ヲ修了シタル者以外ノ入學志願者ノ數高等科各科ニ入學セシムヘキ人員ニ超過スルトキハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル試験ニ依リテ入學者ヲ選拔スヘシ但シ無試験檢定ヲ行ヒテ入學者ヲ定ムルコトヲ得

第四十五條 高等學校ニ於テハ入學志願者ニ對シテ體格檢査ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニ限リ入學セシムヘシ但シ當該學校ニ於テ豫科ヨリ尋常科ニ進人シ又ハ尋常科ヨリ高等科ニ進入スル者ニ關シテハ此限ニ在ラス

第四十六條 高等科第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ第一學年ニ入學スル資格ヲ有シ且前各學年ノ課程ヲ修了シタル者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

第四十七條 高等學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタル時ヨリ一年以内ニ於テ高等學校ニ入學ヲ志願シタル時ハ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ退學シタル高等學校ニ再入學ヲ志願シタル者ニ限リ試験ニ依ラサルコトヲ得

第四十八條 高等學校生徒ニシテ他ノ高等學校ニ轉學ヲ志望スル者アルトキハ關係學校長ノ協議ニ依リ之ヲ許可スルコトヲ得

第五十條 高等學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試験ニ缺席シタル者ニ對シテハ平素ノ成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得  
試験ハ學校長ノ見込ニ依リ之ヲ行ハサルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十二條 學校長ハ高等學校高等科ヲ卒業シタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第五十三條 學校長ハ正當ノ事由アリト認メタルトキハ生徒ノ休學ヲ許可スヘシ  
都五十四條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一年以上缺席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

五 出席常ナラサル者

第五十五條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十六條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第八章 雜 則

第五十八條 高等學校ノ學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

- 一 學年、學期及休業日ニ關スル事項
- 二 學科課程、教授時數ニ關スル事項
- 三 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項
- 四 生徒入學、退學、懲戒ニ關スル事項
- 五 授業料入學料等ニ關スル事項

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

文部省直轄諸學校官制(抄)

第六條 文部省直轄諸學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長
- 教授
- 生徒監
- 助教



書記

第七條 校長ハ勅任又ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條 生徒監ハ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス  
生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ専ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル

第十條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第十七條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

文部省直轄諸學校長職務規程

第一條 校長ハ判任官ノ進退ヲ具狀シ及高等官ノ進退ニ付意見ヲ具ヘテ文部大臣ニ稟申スルコトヲ得

第二條 校長事故アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ經テ高等官ヲシテ其ノ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第三條 左ノ事項ハ校長之ヲ專行スヘシ但シ第六號及第八號ニ關シテハ處分後文部大臣ニ報告スヘシ

第一 教官ノ學科擔任及事務員ノ分課ヲ定ムルコト

第二 規則ノ施行上必要ナル細則ヲ設クルコト

第三 俸給月額八拾五圓以下ノ雇員ノ進退ニ關スルコト

第四 教官以下ノ内國各地出張ニ關スルコト

第五 教官以下ノ除服出仕請假ニ關スルコト

第六 講師ノ解囑及其ノ報酬減額ニ關スルコト

第七 經費中ノ目ヲ流用スルコト

第八 三日以内ノ臨時休業ヲ爲スコト

第四條 前條ニ掲ケタル事項ノ外文部大臣ノ許可ヲ受ケ之ヲ施行スヘシ

高等學校教員規程(抄)

第一條 高等學校高等科教員免許狀ハ本令ノ定ムル所ニ依リ教員檢定ニ合格シタル者ニ之ヲ授與ス

第二條 第九條第二號ニ該當スル者ニシテ高等學校高等科教員養成ニ關スル規程ニ依リ教員タルノ義務ヲ有スル者ハ教員檢定ニ合格シタル者ト看做ス文部省外國留學生規程ニ依リ高等學校高等科教員タルノ義務ヲ有スル者亦同シ

第三條 第一條ノ免許狀及中學校教員免許狀ハ當該學科目ニ關シ高等學校尋常科教員免許狀タルノ效力ヲ有ス

第四條 教員檢定ハ受験者ノ學力、性行、身體ニ就キ之ヲ行フ

第五條 檢定ヲ爲スヘキ學科目左ノ如シ

修身、國語、漢文、英語、佛語、獨語、日本史及東洋史、西洋史、地理、哲學概說、心理及論理、法制及經濟、數學、物理、化學、植物、動物、地質及礦物、圖畫

前項ノ學科目ニ就キ試験檢定ヲ行フ場合ニ於テ第九條第六號ノ受験者ニ對シテハ檢定ヲ受ケントスル學科目ニ併セ本人ノ選擇ニ依リ英語、佛語、獨語ノ中一科目ニ就キ其ノ學力ヲ試験スルモノトス但シ本人カ英語、佛語又ハ獨語ニ付中學校教員免許狀ヲ有スルトキ又ハ檢定ヲ受ケントスル學科目カ英語、佛語、獨語ノ中一ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 試験檢定ヲ行フ場合ニ於テハ受験者出願ノ學科目ノ試験ニ附隨シ其ノ授業法ヲ試験スルモノトス

第七條 試験檢定ハ每年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試験檢定ハ隨時之ヲ行フ

試験檢定ノ出願期限及試験ヲ行フヘキ學科目ハ文部大臣之ヲ告示シ試験施行ノ期日及試験ヲ行フヘキ場所ハ教員檢定委員會長之ヲ公告ス

第八條 檢定ヲ受ケントスル者ハ願書(第一號書式)ニ左ノ書類ヲ添ヘ試験檢定ニ在リテハ住居地ノ地方廳ヲ經由シ無試験檢定ニ在リテハ住居地ノ地方廳若ハ當該學校ヲ經由シ文部大臣ニ出願スヘシ

一 履歷書(第二號書式)及學業證書若ハ免許狀ノ寫

二 第九條第二號乃至第五號ニ該當スル者ニ在リテハ當該學校長ノ證明書(第三號書式)

三 醫師ノ身體檢查書(第四號書式)

地方長官又ハ當該學校長ハ本人ノ性行ニ就キ意見ヲ具申スルコトヲ要ス

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ試験檢定ヲ受クルコトヲ得

一 學位ヲ有スル者

二 大學ヲ卒業シタル者又ハ大學ニ於テ試験ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得ル者

三 高等師範學校ヲ卒業シタル者但シ修業年限ニケ年ノモノヲ除ク

四 專門學校本科又ハ神宮皇學館本科ヲ卒業シタル者

五 高等學校大學豫科又ハ學習院高等學科及元高等學科ヲ卒業シタル者

六 當該學科ニ關シ中學校教員免許狀ヲ有スル者

七 外國ニ於テ高等學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シタル者

八 外國ニ於テ大學若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り學位若ハ卒業證書ヲ有スル者  
九 五年以上高等學校專門學校又ハ之ニ準スヘキ學校ノ教員タリシ者

前項第九號專門學校ニ準スヘキ學校ハ文部大臣之ヲ指定ス

第十條 第九條第一號第二號及第九號ニ該當スル者高等師範學校專攻科又ハ東京高等商業學校專攻部ヲ卒業シタル者及本邦ニ於テ高等學校若ハ之ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ又ハ外國ニ於テ高等學校ニ準スヘキ學校ヲ卒業シ更ニ外國ニ於テ大學若ハ之ニ準スヘキ學校ニ入り學位若ハ卒業證書ヲ有スル者ハ文部大臣ノ適當ト認めタル學科目ニ關シ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

第十一條 不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケントシタル者及試験ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ試験ヲ受クルコトヲ得ス

檢定ニ合格シタル後前項ノ事實發覺シタルトキハ其ノ合格ヲ無効トス

第十二條 高等學校專攻科教員ニ付テハ免許狀ヲ要セス公立及私立ノ高等學校ニ於テ專攻科教員ヲ採用セントスルトキハ擔任學科目、本人ノ履歷書及戶籍抄本ヲ具

シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 高等學校高等科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以内ヲ限リ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

第十四條 體操ニ關シテハ高等科教員免許狀ヲ要セス

第十五條 高等學校高等科ニ於テ體操ヲ擔任スル教員ハ第十三條ノ關係ニ付テハ高等科教員免許狀ヲ有スル者ト看做ス

第十六條 公立及私立ノ高等學校ニ於テ第十三條ノ規程ニ依リ高等科教員免許狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用セントスルトキハ擔任學科目、本人ノ履歷書及戶籍抄本ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規程ハ體操ヲ擔任スル教員ノ採用ニ關シ之ヲ準用ス

第十七條 高等學校尋常科ニ於テハ教員數ノ三分ノ一以内ヲ限リ第三條ノ教員免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ後三年間ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ第十三條ノ制限ヲ超エ高等科教員免許  
狀ヲ有セサル者ヲ教員ニ採用スルコトヲ得

本令施行前文部省直轄學校ノ勅任又ハ奏任ノ教員タリシ者ハ高等科教員免許狀ヲ有  
スル者ト看做ス

(書式ハ略ス)

官立高等學校高等科入學者選抜試驗規程

第一條 入學志願者ノ數當該高等學校生徒募集人員ニ超過シタルトキハ選抜試驗ヲ  
行フ

第二條 各高等學校ニ入學セシムヘキ生徒ノ概數、選抜試驗ニ關スル細目及出願ノ  
手續等ハ其ノ都度文部大臣之ヲ告示ス

第三條 選抜試驗ノ學科目ハ中學校第四學年マテノ必修學科目中ニ就キ之ヲ選定ス  
但シ外國語ハ英語、獨語及佛語ノ中本人ヲシテ其ノ一ヲ選ハシム

前項ノ試驗ハ中學校第四學年修了ノ程度ニ依ル

第四條 選抜試驗ハ各高等學校同時ニ之ヲ行フ

第五條 入學志願者ハ其ノ入學後修業セントスル科及類ヲ指定スヘシ

指定スヘキ科及類ハ左ノ如シ

- 文科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
- 文科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ
- 文科 丙類 佛語ヲ第一外國語トスルモノ
- 理科 甲類 英語ヲ第一外國語トスルモノ
- 理科 乙類 獨語ヲ第一外國語トスルモノ

選抜試驗ノ外國語ニ英語ヲ選フ者ハ志望ノ類二個以上(同一科内ノ類ニ限ル)ヲ併  
セ指定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ志望ノ類ノ順位ヲ定ムヘシ獨語ヲ選フ  
者ノ志望シ得ル類ハ文科乙類又ハ理科乙類ニ限リ佛語ヲ選フ者ノ志望シ得ル類ハ  
文科丙類ニ限ル

第六條 入學ヲ許可スヘキ者ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ定ム

- 一 各高等學校ニ於テ各科毎ニ其科ニ入學セシムヘキ人員ノ總數ト同數ノ人員ヲ試験ノ成績順ニ依リ選出ス
- 二 前號ノ場合ニ於テ試験成績相同シキトキハ抽籤ニ依ル
- 三 前二號ニ依リ選出スル人員ニ就キ試験ノ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第一ノ志望類ニ配當ス
- 四 前號ニ依リ配當ノ結果本人ノ指定スル第一ノ志望類既ニ滿員トナリタル場合ニ於テハ更ニ成績順ニ依リ本人ノ指定スル第二以下ノ志望類ニ配當ス
- 五 本人ノ指定スル類悉ク滿員トナリタルトキハ入學スルコトヲ得サルモノトス前項ニ依リ配當ノ結果又ハ事故ノ爲入學者ニ缺員ヲ生シタルトキハ入學スルコトヲ得サリシ者ニ就キ更ニ前項ノ方法ニ依リ之ヲ補填ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

#### 高等學校高等科入學資格試験規程

第一條 高等學校規定第四十三條ノ高等學校高等科入學資格試験ヲ受ケントスル者ハ年齢滿十六年以上ノ男子ニシテ身體健全、品行方正且現ニ中學校ニ在學セル者タルヘシ

第二條 高等學校高等科入學資格試験ハ文部大臣ノ指定シタル中學校ニ於テ便宜之ヲ行フ

第三條 試験ハ中學校第四學年マテノ必須各學科目ニ就キ第四學年修了ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ

第四條 中學校ニ於テハ高等學校高等科入學資格試験ニ合格シタル者ニ合格證書ヲ交付スヘシ

第五條 高等學校高等科入學資格試験ノ問題、答案及成績表ハ五年以上保存スヘシ

第六條 中學校ニ於テハ本令ノ試験ニ付試験手数料ヲ徵收スルコトヲ得

附 則

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

專門學校入學者檢定規程

- 第一條 專門學校ノ本科ニ入學セントスル者ニシテ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業セサル者ハ此規程ニ依リ檢定ヲ受クヘキモノトス
- 第二條 檢定ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス
- 一 年齢男子ハ滿十七年以上女子ハ滿十六年以上ナルコト
  - 二 身體健全ナルコト
  - 三 品行方正ナルコト
  - 四 現ニ中學校若ハ高等女學校ニ在學セサルコト
- 第三條 檢定ヲ分テ試験檢定、無試験檢定ノ二トシ試験檢定ハ官立、公立ノ中學校若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ニ於テ便宜之ヲ行ヒ無試験檢定ハ當該專門學校ニ於テ生徒入學ノ際之ヲ行フ
- 第四條 試験檢定ノ學科目及其ノ程度ハ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ

各學科目及其ノ卒業ノ程度トス但シ中學校若ハ高等女學校ニ於テ加除シ又ハ課セサル事ヲ得ル學科目ハ之ヲ省ク

第五條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ニ合格シタル者ニハ試験檢定合格證書ヲ交付スヘシ

第六條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ニ於テハ試験檢定ノ問題、答案及成績表ハ五箇年以上保存スヘシ

第七條 官立、公立ノ中學校若ハ高等女學校ハ試験檢定手数料ヲ徴收スルコトヲ得

第八條 左ニ掲クル者ハ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

- 一 文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校若ハ修業年限四箇年ノ高等女學校ノ卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノト指定シタル者

學生生徒兒童身體檢査規程(抄)

第一條 學生生徒兒童身體檢査ハ毎年四月ニ於テ之ヲ施行スヘシ但シ止ムヲ得サル場合ハ五月ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得

監督官廳又ハ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ學校醫ニ於テ必要ト認メ學校長ノ同意ヲ得タルトキハ身體検査ノ全部若ハ一部ヲ臨時施行スルコトヲ得

第二條 身體検査ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

學校醫ナキ場合若ハ學校醫カ身體検査ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ他ノ醫師ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

學校職員又ハ他ノ適當ナルモノヲシテ身體検査ノ一部ヲ助ケシムルコトヲ得

第三條 身體検査ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ

- 一、發育(身長、體重、胸圍)概評
- 二、榮養
- 三、脊柱
- 四、視力及屈折狀態
- 五、色神
- 六、眼疾
- 七、聽力
- 八、耳疾
- 九、齒牙
- 十、其ノ他ノ疾病及異常
- 十一、監察ノ要否

前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ検査ヲ行フコトヲ得

色神検査ハ在學中一回行ヒタルトキハ其ノ後之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 身體検査ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ

- 一 検査ノ表記ニハ度ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ單位トシ四捨五人法ヲ用ヒテ度ハ分、衡ハ分ニ止ムヘシ
- 二 身長ヲ測定スルニハ足袋、靴等ヲ脱セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ
- 三 體量ハ著衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ著衣ノ重量ヲ全重量ヨリ除去スヘシ
- 四 胸圍ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシノ乳頭ノ水平線ニ沿ヒ普通呼吸ノ終レル時ヲ測定スヘシ
- 五 發育ノ概評ハ別ニ定ムル標準ニ據リ甲、乙、丙ノ三ニ分ツモノトス
- 六 榮養ハ甲、乙、丙ニ分チ其ノ佳良ナルヲ甲トシ不良ナルヲ丙トシ其ノ中間ナルヲ乙トス
- 七 脊柱ハ正、左彎、右彎、前彎、後彎ヲ區別シ彎ニ就テハ凡テ其ノ凸側ニ依リテ前後左右ノ方向ヲ表示スルモノトス其ノ程度ハ之ヲ強弱ノ二種ニ區別シ自己ノ意思ニ依リ容易ニ矯正シ得ルモノヲ弱トシ然ラサルモノヲ強トス



- 八 視力ハ萬國式視力表ニ就キ兩眼ヲ各別ニ検査シ裸眼視力ヲ記入スヘシ 裸眼視力一、〇以上ナルモノヲ正視眼トス
  - 屈折機ノ異常アルモノハ其ノ種別ヲ記入スヘシ
  - 弱視、失明等モ兩眼ニツキ各別ニ記入スヘシ
  - 九 色神ハ其ノ異常アルモノニ就キ色盲及色弱ヲ區別スヘシ
  - 十 聽力ハ其ノ障礙ノ有無ヲ検査スヘシ
  - 十一 齒牙ハ齲齒ニ就キ検査スヘシ
  - 十二 其ノ他ノ疾病及異常ハ検査ノ際發見シタルモノヲ記入スヘシ殊ニ結核性疾患、腺病、肋膜炎、心臟疾患及機能障礙、貧血、脚氣、傳染性皮膚病、腺樣增殖症及扁桃腺肥大、「ヘルニヤ」、神經衰弱、精神障礙ニ注意スヘシ
  - 十三 監察ノ要否ハ検査ノ結果身心ノ健康狀態不良ニシテ學校衛生上特ニ繼續的ニ監察ヲ要スト認ムル者ヲ「要」トシ記入スルモノトス
- 第五條 第一條第一項ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ身體検査票ニ記入

- シ本人同一種類ノ學校ニ在學中連年之ヲ繼續スヘシ但シ程度ヲ異ニスル學科部類ヲ有スル學校ニ在リテハ其ノ部類毎ニ別票ヲ用フルモノトス
- 第一條第二項ノ臨時身體検査ノ際必要ト認ムル事項ヲ發見シタルトキハ之ヲ身體検査票ノ裏面ニ記入スルモノトス繼續的監察ノ場合亦同シ
- 他校ヨリ轉入シタル者アルトキハ學校長ハ前ノ學校ヨリ其ノ身體検査票ノ交付ヲ受ケ使用スヘシ身體検査票ハ學校長ニ於テ保管スヘシ
- 第六條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ其ノ結果ヲ本人若ハ其ノ保護者ニ示スヘシ授業免除、就學猶豫、就學免除、休學、退學又ハ治療保護矯正等ヲ要スヘキモノアルトキハ本人若ハ其ノ保護者ニ對シテ特ニ注意ヲ與ヘ其ノ他必要ナル處置ヲ取ルヘシ
- 第七條 第一條第一項ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ身體検査統計表ヲ調製シ其ノ年六月限り文部省直轄學校長ニ在リテハ文部大臣ニ報告スヘシ

附 則

本令ハ大正十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
明治三十三年文部省令第四號ハ之ヲ廢止ス

(身體検査票及統計表様式略ス)

發育概評決定標準(抄)

學生生徒兒童及幼兒ノ發育概評ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ムルモノトス

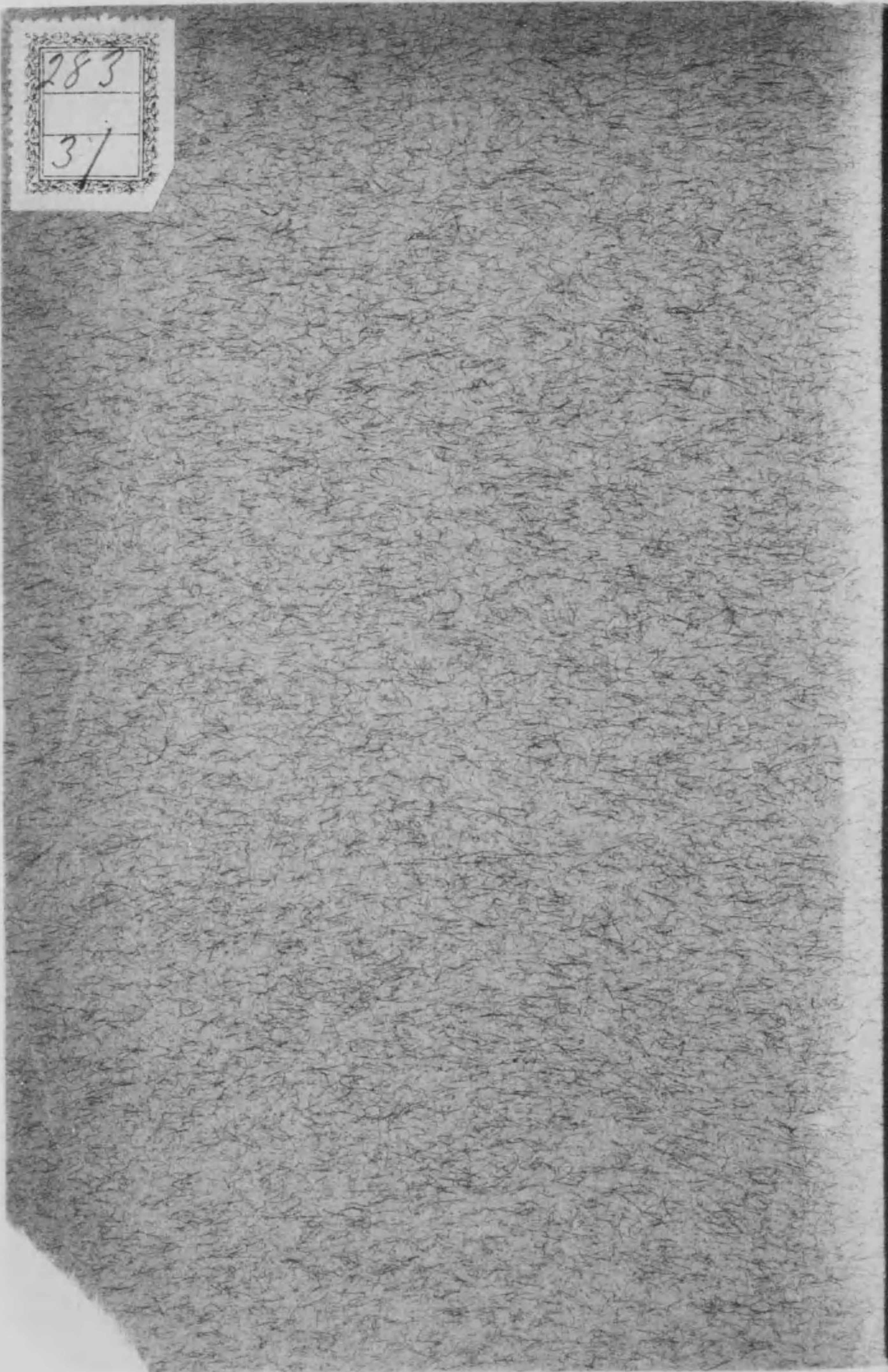
一 七年ヨリ十八年マテノ男子ハ被檢者ノ身長、體重、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ノ三者カ何レモ左記發育標準表ニ照シテ當該年齢ヨリ一年々長ノモノ、標準以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ一年々少ノモノ、標準以上ナルヲ乙トシ甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

二 十九年以上ノ男子ニアリテハ身長五尺三寸、體量十四貫三百匁、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ二、七〇以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ身長五尺一寸八分體量十三貫匁身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ二、五一以上ナルヲ乙トシ、甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

發育概評決定標準表(抄) 十五年以下

年 齡	身 體		身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商
	長	重	
十 六 年	五、〇四	一、八六〇	二、三五
十 七 年	五、一八	一、八五〇	二、四八
十 八 年	五、二五	一、五三〇	二、五八
十 九 年	五、二九	一、四、〇二〇	二、六五

283
37



終

